

大学基準協会から適合認定を受けました

学長 後藤 直正

京都薬科大学は、2008年度に第1期の大学基準協会による認証評価を受審し、同会から「大学基準」に適合する大学であるとの認定評価を得ていました（認定期間：2009年4月1日～2016年3月31日）。2011年度から大学基準協会の認証評価制度は「第2期」のステージに移行し、点検評価項目の改革が行われ、特に「内部質保証システムの構築」が求められることとなりました。内部質保証システム（Internal Quality Assurance）とは、PDCAサイクル等の方法を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準以上にあることを、大学自らの責任で説明・証明するための学内の恒常的・継続的プロセスのことをいいます。

本学もこの第2期の認証評価を受審するべく、2014年4月に自己点検・評価運営委員会を設置し、約1年間をかけて、本学の学部・大学院の教育、教員組織、事務組織、管理運営・財務、内部質保証システムなどの自己点検・評価を行い、「点検・評価報告書」を作成し、必要資料等を添えて評価申請を行いました。その後、2015年4月から書類審査・訪問調査等を経て、2016年3月に「貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する」との評価を得ました（認定期間：2016年4月1日～2023年3月31日までの7年間）。各基準の概評および提言においては、「改善勧告」（改善必須）が0件、「努力課題」（改善任



大学基準協会 認定マーク



認定証

意）が3件でした。また、長所として「学部・研究科ともに京都薬科大学国際化ビジョンのもと、全学的かつ多角的に取り組み、学部では全学生が卒業論文発表会において英語のポスターを作成したり、研究科では英語によるプレゼンテーションおよび英語論文作成に関する英語セミナーを開催するなど特徴ある国際化教育を実践し、グローバルに活躍できる『ファーマシスト・サイエンティスト』や研究者の育成に取り組んでいることは評価できる」とされました。努力課題については鋭意改善するとともに、高い評価を受けた事項についてもさらなる向上を目指し取り組む所存です。

※点検・評価報告書は本学ホームページ、大学基準協会ホームページにてご覧いただけます。

CONTENTS

■ 特集

京都薬科大学 学生ポートフォリオがスタートします 9

■ コラム

卒業生からのメッセージ 28

学生相談室だより 29

私の薦める、私の一冊 31

■ お知らせ

京薬会だより 13

人事 15

2016年度 試験関係日程 16

2017年度 京都薬科大学入学試験について 17

2017年度 大学院入学選考概要 18

教育後援会からのお知らせ 18

2016年度 生涯教育eラーニング講座概要 20

熊本地震への対応について 21

第1回日本薬学教育学会大会を開催します 21

クラブだより 23/26

Library News 31

■ ご挨拶

ご挨拶 2

■ イベント

本学の教育のあり方に関する勉強会の開催 12

平田オリザ氏FD講演会 13

2016年度 白衣授与式を開催しました 13

第7回KPUシンポジウム 14

■ 報告

大学基準協会から適合認定を受けました 1

バイオサイエンス研究センターが

動物実験の実施体制に関して外部検証を受験しました 8

2015年度 授業評価集計結果の報告 22

大学院トピックス 23

2015年度 決算について 24

平成28年度科学研究費助成事業 採択状況 27

受賞・掲載 30

京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 32

就 任 の ご 挨拶



副学長・研究科長

教授 赤路 健一

本年4月1日付で本学副学長ならびに研究科長を拝命いたしました。私は平成元年より平成10年まで、薬品化学教室の助教授として京都薬科大学に勤務しておりました。平成11年から大阪大学・蛋白質研究所をへて平成23年3月まで京都府立医科大学医学研究科教授として医学系学部・大学院の教育・研究に携わってまいりました。その後縁あって本学に復学させていただき、このたびこの大役を仰せつかることになりました。これまでに経験してまいりました国公私立大学における様々な経験を、後藤学長のもとで新たなステージに入った本学の発展に少しでも生かせるよう努めたいと考えております。

私が最初に本学にお世話になっておりました時の4年制薬学教育システムは完全に6年制に移行し、すでに多くの卒業生が出ております。また、この新しい

体制のもと本学の諸施設も一新されました。しかし、本学の目指す教育・研究の本質は変わっておらず、社会のどのような分野でも応用できる基盤的能力を持った学生の育成がきわめて重要な課題であると感じております。また、新たな薬学6年制における研究科の任務としては、3年次から研究活動に従事する学部学生が大学院での研究活動に安心して邁進まいしんできる体制整備とその活性化がきわめて重要であると考えております。本学大学院を修了した学位保持薬剤師がその問題発見・解決能力をフルに生かして学術分野や臨床現場をはじめとする多彩な活動分野で活躍できるよう、微力ながら貢献したいと願っております。

まだまだ慣れないことが多いですが、この2ヶ月で副学長職・研究科長職の重要性を身にしみて感じております。なかなかうまく対応しきれませんが、出来る限り早く後藤学長を補佐し本学に貢献できるように努めたいと思っております。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教務部長

教授 秋葉 聡

本年4月より後藤学長による新体制の下、教務部長としての任を務めております。どうぞよろしく願いいたします。

就任の挨拶として、学生の皆さんには「アドミッション・ポリシーを思い出し、ディプロマ・ポリシーを意識して授業に臨んでほしい」ということを伝えたいと思います。

本学ホームページに記載されているように、アドミッション・ポリシーでは、入学者は薬学を学ぶことに強い熱意をもつ学生であることが求められています。一方、シラバスにも記載されているディプロマ・ポリシーでは、学生は卒業時にファーマシスト・サイエンティストとしての能力を身につけておくことが求められています。つまり、本学での6年間は、その能力を修得するために、努力を惜しまず学修する期間であることを忘れないでください。学修にあたり重要なことは、毎回の授業の目標はもちろん、その科目での到達目標や身につける能力等の全体像を把握して授業に臨むことです。そして復習する際には、暗記項目の羅列のみで終わらせることがないように、到達目標に繋がる学修ポイントを明確

にするという目的をもって整理・理解することが重要となります。科目ごとに求められる能力を身につけるためにも、科目の全体像が記されたシラバスを是非読んでください。

シラバスの冒頭には、全科目を年次別・系統別に基礎から応用・実践へと繋がるようにナンバリングして、科目間の関連性を示してあります。特に、1-2年次生のシラバスには、卒業時に身につける能力についても「コンピテンシー」として具体的に記してあり、その能力を修得するための関連科目が年次別に併記されています。つまり、関連した科目を順次的に学修していくことで、コンピテンシーを身につけることとなります。この学修過程で重要なことは、各科目で修得した能力を関連科目同士で統合することですが、そのためには各科目でインプットした知識・技能・態度を関連科目内で照らし合わせて多面的・俯瞰的に整理し、自発的に多角的にアウトプット（実践）していただくことが大切です。コンピテンシーを身につけるにはアウトプットを繰り返すことが大切ですが、その最も良い機会となるのが総合薬学研究や実務実習であると認識しておいてください。

学生の皆さんには、今一度シラバスを読んでみることをお勧めします。薬学を学ぼうと決めた入学前の気持ちを思い出し、薬学のプロフェッショナルとしての資質を身につけるための努力を継続してほしいと願っています。



学生部長

教授 長澤 一樹

本年4月から学生部長を務めることになりました。学生部は学生諸君の学生生活のみならず、本学卒業生に求められる素養を身につけた豊かな人間性の醸成を支援する部署です。前任の安井教授と学生部・学生課の教職員の方々のこれまでのさまざまな取り組みを引き継ぐとともに、少しでも発展させられればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

医療関係の仕事に就くことが多い本学の学生にとって、優れたコミュニケーション能力が求められることは言うまでもありません。では、そのコミュニケーションの基本になるものは何でしょうか？いろいろと思い浮かぶと思いますが、その一つに五感のフル活用が挙げられると思います。現代社会のコミュニケーションにおいて、SNSなどが重要な位置づけにあることは否定しません。それは手軽さ、連続性による繋がり感といった特性によると思われま

が、一方でそれはface-to-faceのコミュニケーションの機会を減らすことになっていないでしょうか？最近、友人などと一緒にいても会話することなく、それぞれが音楽を聴き、スマートフォンを見つめているという場面を見かけることがあります。このような状況では、端末を通じて得られる情報などについて、時々刻々と、短文、極端な場合にはフレーズ、単語、記号によるやり取りに終始しており、当事者以外にそれを伝えるための、五感で捉え、得られた情報を統合し、話を構成するといった能力はほとんど必要ありません。これを日常的に繰り返すことは、コミュニケーション能力にどのように影響するのでしょうか？

生物が生きていく上で必要のない能力は退化することがあります。五感を退化させることなくさらに磨き上げるためにも、自身の行動を今一度見つめ直してみませんか？まずは、朝のあいさつから実践してみませんか？あいさつ一つをとっても五感を活用するかしらないかで、そこで得られるものが大きく変わります。自らON・OFFを上手く切り替えてバランスよく行動することによって五感を磨き、学生生活を充実したものにしてください。そのような学生諸君を全力で支援します。



進路支援部長

教授 栄田 敏之

本年4月より西口工司先生の後任として進路支援部長を拝命いたしました。進路支援部あるいは進路支援課の教職員の方々とともにその役目を果たす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、学生の皆さんは、本学卒業後の進路について、どのようなイメージを持っているのでしょうか。1年次、2年次なら、製薬企業か医療機関（病院、保険薬局）という程度のイメージでしょうか。進路について真剣に考えだす5年次以降なら、自身で色々調べて、製薬企業や医療機関以外にも、薬の専門家である薬剤師が活躍できる、実にさまざまな業種があることに気が付いている人も多いと思います。製薬企業といっても、新薬を創出する製薬企業も、そうでない製薬企業もあります。新薬創出をサポートする企業などもあります。さらに、例えば、製薬企業の中でも、研究、開発、生産、品質管理、学術、営業など、さまざまな職種があります。また、病院といっても、急性期医療を中心とする病院か慢性期医療を中心とする病院かで、仕事の内容は大きく異なります。

進路支援課では、進路について考える際に有益な

情報を提供するとともに、学生の皆さん個々にあわせて、さまざまなサポートを行っています。薬剤師を取り巻く社会的な環境は常に変化しています。博士学位の必要性は大きくなる一方です。これらをふまえた質の高い情報提供やサポートを心がけています。具体的な内容は、学生に配布済の「2016キャリア支援プログラム」をご覧になっていただければ、手厚く準備されたサポート体制を把握していただくと考えています。対象を5年次に限定していないことも理解していただけるはずですが、特に、創立130年以上という伝統の強みを生かし、既に卒業された方々と交流できる場を設けており、是非とも活用していただければ、と思います。

おおよそ5年次以降、自身の能力、性格などを勘案して、進路を決めて、就職活動を開始するのですが、ここで、英語力を伸ばしておけばよかった、小論文がうまく書けるようになっておけばよかった、プレゼンテーション能力を身につけておけばよかった、という類の言葉を少なからず耳にします。ですから、学生の皆さんに是非ともお願いしたいことは、勉学に励むことはもちろんのこととして、1年次、2年次のうちから、さまざまな活動を介して、多くの人々との交流を持ち、視野を広め、自身の力を伸ばすことを心がけるといことです。本学の学生の能力は高いと思います。有意義な学生生活を送って、真に希望する進路を見つけ、その進路に進まれることを全力で応援致します。

新任のご挨拶



薬学教育系
教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
教授 楠本 正明

平成28年4月1日付で臨床薬学教育研究センターに着任いたしました。

私は、昭和55年3月神戸学院大学薬学部を卒業後、故郷の京都府舞鶴市にある国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院に就職し、30年間病院薬剤師として従事して参りました。平成23年、医療政策監として舞鶴市に採用され地域医療再編に取り組み、薬剤師として行政に関わる貴重な経験をいたしました。平成24年からは、調剤薬局において薬局の経営と運営

に携わりました。特に、病院時代には、早期から『患者志向』を実践し、TDM・病棟業務・院外処方箋発行・ジェネリック医薬品の使用促進を段階的に進め、現在の『臨床薬学』の基盤を築くことができました。また、調剤薬局では地域医療・介護連携を三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）と行政で取り組み、2025年問題を見据えた『地域包括ケアシステム』の構築をすすめて参りました。

臨床薬学は、基礎・専門分野で学んできた知識を臨床の現場で実践し、薬剤師として『医薬品適正使用』に貢献するために重要です。これまでの経験を生かし、微力ながら臨床現場で活躍できる薬剤師を育てたいと思います。教職員の皆様にはご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。



生命薬科学系
衛生化学分野
助教 大石 晃弘

平成28年4月1日付で衛生化学分野の助教に着任いたしました。私は、藤本貞毅教授（現 名誉教授）、長澤一樹准教授（現 教授）、西田健太郎助教（現 講師）のご指導の下、平成24年に本学を6年制第1期

生として卒業後、平成28年3月に本学大学院博士課程を修了、博士（薬学）の学位を取得しました。学部学生時代より衛生化学分野に所属し、中枢神経系におけるATP受容体の役割や、抗がん剤誘発性味覚障害の発症機構の解明を主なテーマとして研究に従事して参りました。本学6年制の卒業生として、薬学教育の発展、優れた能力を有する薬剤師の育成に貢献できるよう日々精進して参ります。ご指導、ご鞭撻の程よろしく願い致します。



生命薬科学系
病態生理学分野
助教 戸田 侑紀

平成28年4月1日付で病態生理学分野の助教に着任いたしました。私は、平成18年に本学の薬学6年制1期生として入学しました。充実した研究活動と病院・薬局での長期実務実習をはじめとする新たな薬学教育に身を投じる中で、自らの研究を通して社会貢献したいという感情が芽生えました。その想いの

下、平成24年の学部卒業後は本学に新設された4年制博士課程に進学し、分野の垣根を越えて多くの先生方から指導を頂くことで、平成28年に課程を修了、学位を取得しました。

未開の路を歩んできた私から学生のみなさんに伝えられることは、自ら“志”を持つことの大切さであり、それを日々の気づきから丹念に紡げるよう、寄り添っていきたいと思います。そして、その若い無垢な力と共に私自身も、自己実現に向けて精進していく所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2016年度KPU^{NEWS}編集委員は下記の皆さんにお願いすることとなりました

<委員長>

鈴木 栄樹（教授）

<委員（教育職員）>

大矢 進（教授）

藤室 雅弘（教授）

藤原 洋一（教授）

長谷井友尋（講師）

<委員（事務職員）>

井本富美代（学生課長）

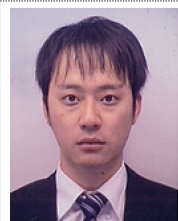
川勝 章広（企画・広報課長）

<委員（学生）>

岩崎 仁志（4年次）

丸川 裕己（3年次）

垣本 愛（2年次）



生命薬科学系
公衆衛生学分野

たかひろ
助教 松本 崇宏

平成28年4月1日付で、公衆衛生学分野の助教に着任いたしました。私は平成24年に本学を6年制薬学部第1期生として卒業後、本学大学院薬学専攻博士課程に進学いたしました。博士課程におきましては、生薬学分野にて生体機能性を有する天然有機化合物の

探索研究を行いました。在学中、University College London School of Pharmacy 客員研究員および日本学術振興会特別研究員 DC2 としての研究活動を経て、平成28年3月に博士課程を修了、博士の学位を取得しました。

大学院在学中とは異なる分野での活動を通して、本学の推進する分野の垣根をこえた教育、研究の発展に尽力したいと考えています。職員をはじめ関係者皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
教育研究総合センター
薬学教育研究センター

助教 高橋 由佳

平成28年4月1日付で、薬学教育研究センターの助教に着任いたしました。

私は平成24年に帝京大学薬学部を卒業、平成28年に同大学大学院薬学研究科博士課程を修了、学位を取得しました。

私は、教育に興味があり大学時代に教職課程を履修し、教員免許を取得しました。そこで、教育実習を経験し、学生の精神的なサポートもできる職に就きたいと思うようになりました。「教育センターには、いつでも話をきいてくれる先生がいる」と学生たちが安心できる、身近に寄り添える教員でありたいと思います。

私のこれまでの経験を活かし、本学における薬学教育の発展に微力ながら貢献できたらと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター

ちさき ゆうご
助手 地寄 悠吾

平成28年4月1日付で、臨床薬学教育研究センターの助手に着任いたしました。私は平成24年に本学を卒業し、平成28年に京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程を修了しました。在学中は数理モデルを用いた医薬品評価研究として、新薬開発の効

率化や医療現場における医薬品の適正使用を推進する手法の構築をテーマとして研究を行ってまいりました。臨床薬学の領域では、患者中心の医療を実践する人材や臨床研究に積極的に取り組む人材養成が急務とされています。特に臨床薬学教育研究センターは実務事前実習や実務実習に大きく関わり、6年制薬剤師教育の重要な役割を担っています。私のこれまでの経験を活かし、本学における教育・研究の発展に微力ながら尽力させて頂きたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
教育研究総合センター
学生実習支援センター

よしこ
助手 千原 佳子

平成28年4月1日付で学生実習支援センターに着任いたしました。私は、平成17年に本学薬学部を卒業し、平成19年に本学大学院博士前期課程（機能分子化学教室）を修了しました。その後、製薬企業にて1

年間勤務し、大阪大谷大学薬学部有機化学講座の助教を本年3月まで8年間勤めました。

薬学で必要とされる幅広い知識を定着させるには、実習等における実践がその一助となると考えます。これまでの学生教育の経験を生かし、微力ながら実験実習教育に尽力していきたいと考えております。

学生の皆様とともに、私自身もさらに成長していきたいらと思いますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系
教育研究総合センター
学生実習支援センター

ゆき
助手 徳山 友紀

平成28年4月1日付で、学生実習支援センターの助手に着任いたしました。私は平成22年に京都薬科大学に入学し、6年制薬学の5期生として平成28年3月に卒業いたしました。本学で学んだ6年間の経験を活かし、特に代謝分析学分野で学んだ研究マインドを

ベースに学生教育に従事したいと考えております。私に関わらせていただく学生実習だけではなく、学生の皆様にとって最も身近な卒業生であり教員として、さまざまな面においてサポートしていきたいと思っております。

知識、経験において乏しい部分も多くあると思いますが、教職員の皆様をはじめ関係者の皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、本学に貢献させていただきたいと思っております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



分析薬科学系
代謝分析学分野

助教 有光 健治

平成28年4月1日付で代謝分析学分野の教育研究支援助教に着任致しました。私は平成19年に本学の製薬化学科を卒業後、本学の修士および博士課程を修了し、学位を取得致しました。そして、博士研究員として京都大学大学院薬学研究科およびオハイオ州

立トレド大学化学科にて分析化学、放射化学、有機化学の研究分野における研鑽を積んだ後、武庫川女子大学薬学部薬化学I講座の助教としてこの3月までの3年間、薬学部での教育と研究に携わって参りました。

私自身大変お世話になりました京都薬科大学の教職員の皆様に再びご指導を仰ぎながら、後輩である本学学生の皆さんの輝かしい将来を築く一助となれる事を大変光栄に感じております。これまでの経験を活かしながら本学の一員として精進して参りたいと存じます。何卒宜しくお願ひ致します。



病態薬科学系
薬理学分野

助教 丹羽 里実

平成28年4月1日付で薬理学分野の助教に着任いたしました。私は、平成18年に名古屋市立大学博士前期課程を修了後、同大学病院の薬剤師勤務を始め、同大学の兼任講師としても着任いたしました。さら

に、薬剤師をしながら同大学博士後期課程に進学し、平成23年に博士（薬学）を取得いたしました。その後、京都薬科大学ポスドクターとして、前立腺肥大や前立腺癌におけるイオンチャネル創薬研究を進めてまいりました。そしてこの度、新たに本学の協定締結施設である洛和会音羽病院との臨床研究推進に携わらせていただくこととなりました。

皆さまにご指導いただきながら、薬理学分野の教育・研究の発展に尽力したいと思っております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



事務局長

かおる
山下 馨

5月1日付で事務局長に着任いたしました。私はこれまで37年間、文部科学省、国立大学法人等で異なる組織環境下で、独自の慣行に触れ、多くの職務に携わってきました。経験を重ねる中で、「組織は人なり」を強く意識し、人材育成の大切さを痛感しました。人材育成には、何よりも環境要素が大きい。

しかし何に活用するのかが明確でないとの確な育成は困難です。特に現在のようなグローバル化が進展する中で考え方も多様、職場により人種や宗教観も千差万別という中では特に目的の明確化が必要です。

次代を見据えた有為な人材の育成に真摯に取り組む本学の教育・研究環境の更なる発展充実を目指し、永年の勤務で培った多様な業務経験から得た知識、経験、人脈など自らの持てる全力を傾け、危機意識をもって職務に取り組みたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

昇任のご挨拶

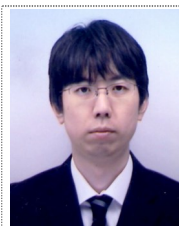


医療薬科学系
薬剤学分野

准教授 勝見 英正

平成28年4月1日付で准教授に昇任させていただきました。私は京都大学大学院薬学研究科博士後期課程（薬品動態制御学分野）在学中であった平成18年4月に薬剤学分野の助教（当時は助手）として着任し本学の教育、研究に携わってきました。平成22年に京都大学において博士（薬学）の学位を取得した後、平成25年9月から約1年半の期間、ブリティッシュコロンビア大学 Pieter Cullis教授の研究室に研究留学しました。

薬剤学分野においては着任以来現在に至るまで、酸化ストレス及び骨疾患を対象としたDDS開発と疾患治療への応用に関する研究に従事しております。教育については、「製剤学」及び「物理薬剤学」の講義を担当しておりますが、製剤学の学生実習と併せて、患者指向の実学である製剤学及び物理薬剤学が学生の皆さんにとって、より身近に感じることができるよう工夫していきたいと考えています。「医療の担い手」である薬剤師が医療現場においてさらに重要な役割を果たし、薬の専門家として益々活躍できるよう教育及び研究活動に邁進するとともに、本学の学生が将来的に、医療現場ならびに研究・開発領域におけるリーダーとして活躍できるよう尽力する所存です。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



創薬科学系
薬品化学分野

講師 小林 数也

この度、平成28年4月1日付で薬品化学分野の講師昇任を拝命いたしました。私は平成19年に京都大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科へと進学し、藤井信孝教授のご指導の下、平成24年に博士後期課程を修了いたしました。その後、同大学博士研究員として、3ヵ月ほどトロント大学のAndrei, K. Yudin教授の研究室に留学し、同年10月に本学薬品化学分

野の助教として着任いたしました。

着任後は、酵素の基質配列を基盤としたアルツハイマー病治療薬の開発研究や、新規作用機序を有する抗がん剤開発研究など、創薬を目指した研究活動に取り組みつつ、「先端創薬学概論」「薬学総合演習」「有機化学実習」などの講義・実習を担当させていただいています。

今後、私の専門である有機化学、創薬化学に関する研究・教育を通して、本学における薬学6年制教育の更なる発展に貢献していけるよう、尽力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



事務局
企画・広報課兼
国際交流推進室

課長兼室長 川勝 章広

2016年4月1日付で課長に昇任させていただき、企画・広報課長を拝命し、国際交流推進室長を兼務することになりました。私は1993年に京都産業大学法学部法律学科を卒業後、本学学生課に事務員として採用されました。以後は、就職指導課（現進路支援課）、教務課を経て、2011年10月に企画・広報課に

配置換えとなり、2014年7月に国際交流推進室兼務となりました。大学職員として約19年間所属した学生さんと接する機会の多かった教学部門を離れ、現在は大学運営に関する企画・広報業務と、2014年4月に大学の国際化に向けて設置された国際交流センターの業務に従事しています。大学の魅力発信や海外留学・国際交流事業を通じて、在学生、卒業生及びご関係の皆様に、京都薬科大学に、より誇りと自信を持ってもらえるような大学づくりを目指し、微力ではありますが尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



事務局
入試課

課長 森 洋介

2016年4月1日付で入試課長に昇任させていただきました。私は2005年1月に本学事務職員に採用され、学長企画室、企画・広報課、進路支援課を経て2014年4月から入試課において入試業務や入試広報業務に従事してきました。

現在、日本の大学は大きな変革期にあります。2018年からは、現在踊り場にある18歳人口が再び減

少し始める「2018年問題」に直面します。そして2020年には高大接続改革により、これまでの大学入試センター試験に替わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が実施される予定です。このような大きな変革の中にあっても、これまで以上に優秀な学生を確保し、社会が求める薬剤師を輩出していくことが本学の使命であると考えています。

私は本学の入学試験改革や入試広報活動を通して、社会が求める優秀な薬剤師輩出に少しでも貢献して参りたいと考えております。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

バイオサイエンス研究センターが 動物実験の実施体制に関して外部検証を受検しました。

Report

バイオサイエンス研究センター長 山本 昌

バイオサイエンス研究センター(BSRC)は2015年度に公私立大学実験動物施設協議(公私動協)主催の動物実験に関する外部検証事業による検証を受検しました。

公私動協には、全国の公私立大学医学部、薬学部、農学部等々の動物実験実施施設が所属(2016年4月現在で153機関、167施設)しており、国立大学動物実験施設協議会(全国の国立大学および国立行政法人等の研究機関の動物実験実施施設が所属)と並んで我が国の大学の動物実験施設等を集約した唯一の協議会です。

この検証事業は、文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(2006年6月)」、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン(2006年6月)」の双方で積極的に受検することが推奨されています。

昨年、8月31日(月)に公私動協の検証員2名がBSRCを訪問し、本学の動物実験の実施体制に関して提出した「自己点検・評価結果報告書」について検証を受けました。

その結果、次のような講評をいただきました。

約130年前に設立された京都薬科大学は、薬学分野の人材育成と研究活動による社会貢献を目的とする薬学部と大学院を有する国内有数の私立薬科大学である。本大学では、動物愛護管理法および関連法規、ならびに文部科学省基本指針に則して実験動物の飼養保管の管理体制および適切な動物実験が実施できる体制が整備されている。

また、安全管理を要する動物実験、教育訓練、自己点検・評価および情報公開が適切に行われている。2013年9月に新設された実験動物飼養保管施設



であるバイオサイエンス研究センターは、SPFレベルの微生物統御により運用され、安全管理を要する動物実験の実施状況も把握されている。実験動物管理者、管理受託者、動物実験実施者、および飼養者は、それぞれ決められた役割に従って実験動物を管理し、動物実験を行い、それらの実施状況も把握されている。センター長および専任教員によって行われている学生に対する教育訓練は講義形式だけでなく、日常的な指導にもおよび、また外部講師を招聘したセミナーに積極的に参加するよう指導されており評価できる。今後も最新情報を取り入れ、適切な動物実験を継続されることを期待する。

ただ、同時にいくつかのご指摘もいただきましたので、これらを早速センターの運用に取り入れ、更に適正な動物実験を実施できる環境整備を進める所存でございます、利用者の皆様にも一層のご協力を賜ります様お願い申し上げます。

京都薬科大学 学生ポートフォリオがスタートします！



京都薬科大学第2期中期計画（2012～2016年度）では、「自立した学生の育成」を推進項目に掲げて取り組んでいます。その取り組みの一環として、2016年度から1・2年次生を対象に「京都薬科大学学生ポートフォリオ」を導入しました。このポートフォリオは、学生部・教務部および進路支援部を中心に結成されたプロジェクトチームでプログラム化され、自己の目標や学習計画に活用できるほか、学生生活の振り返りも可能としています。また、このポートフォリオは、「紙媒体」をベースとしていますので、基本的なシートの他にも、使い方はかなり自由度が高くなっています。是非、オリジナルな活用にもチャレンジしてみてください。在学期間は6年間と非常に長い期間となりますので、日々の学習やクラブ活動等大学生活のモチベーションを維持することにもつながるものとなるでしょう。

学生の皆さんには、この京都薬科大学学生ポートフォリオ（KPU学生ポートフォリオ）を大いに活用していただき、自分をしっかり見つめることで「自立した学生」に育っていただきたいと思います。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

KPU学生ポートフォリオ プロジェクトチーム

今年度から1・2年次生を対象に京都薬科大学学生ポートフォリオ（以下、「KPU学生ポートフォリオ」という）を始めました。

ポートフォリオとは、英語では書類を運ぶ平らなケースのことをいいます。芸術などの分野では、自分の能力を周囲に伝えるための自己作品集のことをいいます。

共通しているのは、大事なものをありのまま記録しておくというイメージでしょうか。

KPU学生ポートフォリオも、「経験を記録するアルバム」として活用し、これから卒業するまでの6年間の貴重な経験を忘れないように記録してほしいと思います。

■ 導入の経緯

KPU学生ポートフォリオは現在進めている第2期中期計画のなかにある「目標設定支援体制の構築」の一環としてプロジェクトチームを結成し、導入を検討してきました。目標設定支援体制の構築が目指すところは、“自立”です。KPU学生ポートフォリオでは、自ら目標を設定し、取り組み、目標に沿っているか確認し、必要な部分は修正して実行するというサイクルを6年間にわたって繰り返します。いわゆる

PDCAサイクルを実践することで、自ら考え行動する人への成長を期待しています。つまり、建学の精神である『愛学躬行』の実践を目指しています。第2期中期計画では学生情報の共有化も課題としてきました。KPU学生ポートフォリオにより学生相談員や分野主任は、担当学生の活動を俯瞰することができ、より緊密な関係が構築されることでしょう。学生指導もより充実したものになると考えられます。

■ 京都薬科大学 学生ポートフォリオの特長

KPU学生ポートフォリオは、紙媒体でファイルに記録を残していきます。いまどき紙？と思うかもしれませんが、しかし、例えば1年間を振り返ろうとしたとき、電子媒体よりも手に取ってみることができるも

のの方が全体像をつかみやすいと考えました。記録した用紙の順番を入れ替えたり、抜き取ったりすることも容易です。また、振り返った時にその時の考えを書き加えることもできます。

■ 学生ポートフォリオの活用方法

KPU学生ポートフォリオは、学修の振り返りや、進路選択時に役立ててほしいと考えていますが、基本的に活用方法は個人の自由です。必要なときに振り返りができる材料を残しておくことが大切です。な

お、当初の目的を達成するために、プロジェクトチームで考え準備したシートもあります。現在準備しているシートを紹介します。

【1】表紙になります。このシートだけは学生相談員や分野主任との面談で利用するので、記入が必須となります。①年度の初めに目標を立て、②10月に目標に対する進捗状況をチェックします(途中経過)。③-1 3月には1年間を振り返り(最終結果・改善策)、③-2 次年度の目標を立てます(目標)。10月と3月は成績通知書を学生相談員もしくは分野主任から受け取るタイミングとなっています。

K P U 学生ポートフォリオ		京都薬科大学	
目標		途中経過	最終結果・改善策
1年度 大学1年生	①	②	③-1
2年度 大学2年生	③-2		
3年度 大学3年生			
4年度 大学4年生			

【2】目標を立てる元になるシートで、新入生にはガイダンスの際に記入してもらいました。卒業後の目標は今後変化するかもしれませんが、時には初心を思い出す意味で読み返してみてください。

卒業後の自分 2016年 4月 2日記入

①好きな言葉・モットーなど
人生に失敗がないと、人生に失敗する。
努力は必ず報われる

6年後(24)歳
②将来の夢・挑戦したいこと
製薬企業でデータ解析の仕事をする。
TOEIC 800点

1年後(19)歳
④夢のために1年間がんばること
数学の授業で優を取る。
物理の苦手意識を1年の内になくす
英単語を毎日覚える

現状分析(18)歳
③今やりたいこと・得意(苦手)なこと
数学・生物が得意
英語・物理が苦手

基本情報技術者の資格を取る
ボランティアで新しい企画を提案する

情報処理の勉強会を開く
ボランティア活動を続ける。

プログラミングに興味あり
児童館でボランティア活動をする。

個人生活

【3】日々の学修時間を記録するシートです。予定表としても活用できるかもしれません。自由記述欄に、その日の印象深かった出来事などを記入してもいいかもしれません。

7/11 ~ 5/15

7/11	<授業> ・基礎数学A ・健康科学 ・基礎演習	<自習> 英単語	8 時間
7/17	・山科のスタバで〇〇と勉強(有機化学)		2 時間
1週間の総勉強時間			46 時間

※予定表として活用してもよい
※自由記述欄には何をどのように(場所・方法・内容など)学習したかなど記入のこと

【4】科目ごとの勉強時間を累計するシートです。大学設置基準では、本学の標準な1科目の単位数である1.5単位を修得するためには、67.5時間の学習が必要とされています。皆さんの学習時間は足りているでしょうか?頑張った科目、学習時間が足りない科目が一目瞭然になるでしょう。共用試験や国家試験の準備の時にも、何が必要か知る手がかりになるかもしれません。

2016年度前・後期 1年次生

	2	4	6	8	10	12	14	60	62	64	66	68
早期体験学習												
基礎演習												
健康科学												
情報科学												
有機化学A												
物理化学A												
解剖学												

1単位45時間の学修が必要(=1.5単位では67.5時間)。
講義も含めた学修時間を記入(講義一回は便宜上2時間で計算)。

【5】学修に対する自己の振り返りと試験結果などを比較するためのシートです。

授業科目	自己評価	評価(再試験)	全体の振り返り
	自己評価の理由	自己評価との比較	
<科目名>	点	点	
		(点)	
<科目名>			
<科目名>	点	点	
		(点)	
(学習面において今期を振り返り、今後取り組みたいことを記入してください)			

【6】写真などを撮って残しておくシートです。コメントを残しておくことで、その時に感じていたことなどを思い出す手がかりになるでしょう。

題名:	20 年 月 日
<貼付け箇所>	
コメント:	

【7】日々の出来事を簡単にメモしておくためのシートです。

日付	今日一日で一番印象に残ったことは何でしたか？	どんなところが印象に残りましたか？
／ ()		
／ ()		

シートはすべてWeb掲示板に載せています。決まった使い方はないので、自由に利用してほしいと思います。また、「こんなシートがあれば便利」という要望があれば、愛学館1F事務室に申し出てください。

■ 大学の取り組み

1年次生には、新入生ガイダンスの中でKPU学生ポートフォリオについて説明をし、6年後の理想像とそこに向けた1年間の目標を立ててもらいました。加えて、4月中旬から少人数のグループ毎にランチタイム談話会を実施し、記録を残す大切さを伝えました。参加した学生からは、「レポート等を綴っていきたい」「なんでもとりあえず綴じていってみる」といった声も聞かれました。学生相談員との面談にも活用します。



■ 最後に

繰り返しになりますが、何をどのようにポートフォリオに残すのかは、自分で決めることができます。KPU学生ポートフォリオを活用することは、みなさんの学生生活が良くなることにつながるはずです。自分が大切だと思うこと(もの)を残してください。きっとポートフォリオが大切なものになるはずです。

勉強会概要

2016年2月22日（月）13時30分より本学Q31講義室において、教務部委員会主催による「本学の教育のあり方に関する勉強会－教育の基盤となるカリキュラムや授業の質に関する意見交換－」を開催しました。

本勉強会のねらいは、1. 教務部委員会での検討事項（問題点）の周知、2. 検討事項に関する教員からの意見収集が主であり、この勉強会によって全教員の教育に関する意識や足並みが揃い、担当科目の「到達目標や評価方法」の適切性を見直す機会になることを願って開催しました。

当日のプログラムは次のとおりです。

1. 全体説明
 - 1-1 主旨
 - 1-2 本学の6年制薬学教育に関する基本事項
 - 1-3 学習成果基盤教育（OBE）に基づいた本学の教育課程
 - 1-4 薬学教育評価機構からの指摘事項の要点
 - 1-5 教務部委員会での検討事項
2. 分科会での討論
 - 2-1 分科会A：1-2年次での授業のあり方（具体的な到達目標、評価、教授法）について
 - 2-2 分科会B：3-4年次での授業（到達目標、評価）のあり方と今後の科目について
 - 2-3 分科会C：OBEに基づいた本学の教育のあり方（体系性、到達目標、評価）について
3. 全体説明（各分科会からの報告）

勉強会を終えて

当日は、教務部委員が各分科会の進行役を務め、WC（ワールド・カフェ）形式やSGD形式を取入れながら活発な意見交換が行われました。終了後の感想として、勉強会を繰り返し開催して問題点を共有し、職位や所属を越えたディスカッションを通して教育の改善に繋げていくべきだとの声が多く寄せられました。また、教授会等の報告や教務課からの通知で断片的に知る教学的な内容を初めて俯瞰的に把握できたことや、授業や評価方法が独りよがりとならないように見直すきっかけにしたい等の感想もありました。

学生の皆さんへ

なぜこのような勉強会を開催したと思いますか？本学は、学生の誰もが卒業時には一定の質（知識・技能・態度）を備え、社会で活躍してほしいと願っております。そのために、当たり前ですが、一定の質を保った授業を構築できているか、すなわち、シラバスに記載した到達目標に基づいた授業や、到達度を測る評価が適切に行えているかどうかを見直そうと考え、本勉強会を開催しました。今後、学生の皆さんは授業や試験を含めた評価などにおいて、何かしら変わったかなと感じるかもしれません。決して厳しくなるのではなく、どの科目も日頃の復習が「当たり前」になるというだけなのです。



全体説明



各分科会からの報告



分科会での討論1



分科会での討論2

2016年3月7日（月）にFD講演会を開催しました。今回は、劇作家・演出家の平田オリザさんを講師にお招きし、『わかりあえないことから』と題して現在のコミュニケーション教育の最新状況や今後の展望について講演していただきました。なお、平田講師は、東京藝術大学、大阪大学などで教員としても活躍されています。

本講演会は、教育職員のFD（大学教員の教育能力を高めるための実践的方法）として開催しましたが、教育職員の他、事務職員も多数参加し、コミュニケーション論について学びました。

講演では、劇作家・演出家の視点・経験から、興味深い話題が提供され、本学教員が現代の学生の本質を

新たな視点で捉え、より深いコミュニケーションをとることができるようになるための多くの示唆を得る機会となりました。今後は、この学びを学生への教育・生活支援につなげていきたいと考えています。



講演会の様子

2016年度 白衣授与式を開催しました

2016年4月8日（金）午前10時から創立130周年記念館において、病院・薬局での実務実習を直前に控えた5年次生を対象に、医療人として、また京都薬科大学の学生としての責任と自覚を再度認識してもらうため、白衣授与式を開催しました。

式典では、5年次の代表者2名が学長から白衣を授与された後、全員が校章と大学名の入った白衣を着用しました。その後、後藤学長から式辞、矢野臨床薬学教育研究センター長から「実務実習に向けた心構え」、教育後援会を代表して清水役員から挨拶が述べられました。

最後に5年次生の代表から「愛学躬行の精神を心に抱き、自ら積極的に学び、行動する姿勢を大切に、

立派なファーマシスト・サイエンティストになるべく、本学の学生らしい意欲と態度で実習に臨む」との誓いの言葉が述べられ、閉式となりました。



白衣授与式の様子

News 京薬会だより

<2016年度 京薬会代議員総会の開催>

2016年度京薬会代議員総会を5月28日（土）に開催しました。

午前中には支部長による支部長会、そして午後には代議員総会が開かれました。支部長会に於いては、現在の京薬会ならびに支部活動の活性化、その他京薬会活動のさまざまな話題について、各支部長の意見集約とともに活発な議論が交わされました。

また、午後から全国から集まった支部ならびに年次代議員により平成28年度代議員総会が開催されました。この中では、27年度事業報告、27年度決算、28年度事業計画ならびに予算案そして京都薬科大学京薬会から選任される評議員の候補者選出規程の改正案が諮られ、いずれも承認されました。また、同

窓会としての卒業生のための活動として新企画、講師バンクの設立ならびにリカレント研修（調剤業務基礎研修講座）を今年から開講することが報告されました。

<ホームカミングデー開催予定>

本年度ホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月6日（日）に開催します。今年の講演は、本学卒業生で現在近畿大学東洋医学研究所講師の日置智津子先生による「現代東洋医学（漢方）の理論・期待できる薬剤師による実働と展開」を予定しています。卒業生の皆様の多数ご参加をお待ちしております。

2016年4月28日（木）、京都薬科大学・躬行館T31講義室において、第7回KPUシンポジウムを開催しました。特別講演として国立がん研究センターの濱田哲暢先生ならびに熊本大学大学院の杉本幸彦先生をお招きし、それぞれ「がん化学療法分野における個別化医療に向けたPK/PD解析：TDM makes ‘personalized’ medicine more ‘precise’ medicine」および「プロスタグランジンE2による炎症惹起の分子機構」という演題でご講演頂きました。また、一般講演として斎藤博幸教授、木村寛之准教授および中田晋准教授の3名の学内教員によりこれまでの研究内容についてご紹介頂きました。合計350名の多くの学生および教職員の方々にご参加下さいました。また、シンポジウム終了後に開催した交流会では、多くの学部学生が特別講演および一般講演の先生方を囲んで質問しており、活発な討論が続きました。今回も座長をご担当頂いた先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

■ シンポジウムにおける講演および茶話会の様子



国立がん研究センター
濱田 哲暢 先生



熊本大学大学院生命科学研究部
杉本 幸彦 先生



後藤 直正 学長



斎藤 博幸 教授



木村 寛之 准教授



中田 晋 准教授



KPUシンポジウム委員長
加藤 伸一 教授



講演会場



茶話会

■ シンポジウム概要

日時：2016年4月28日（木）14：00～16：40

場所：京都薬科大学・躬行館3階 T31講義室

開会の挨拶

後藤直正 学長

一般講演1 14：05～14：30（座長：北出達也 教授）

「アポA-IによるHDL産生反応の物理化学的機序」

齋藤博幸 教授（薬品物理化学分野）

一般講演2 14：30～14：50（座長：濱 進 講師）

「分子イメージング技術を用いた新しい診断法の開発」

木村寛之 准教授（代謝分析学分野）

一般講演3 14：50～15：10（座長：藤井正徳 准教授）

「脳腫瘍マウスモデルにおける癌幹細胞の特性解析と治療標的の探索」

中田 晋 准教授（臨床腫瘍学分野）

特別講演1 15：20～16：00（座長：栄田敏之 教授）

「がん化学療法分野における個別化医療に向けたPK/PD解析

TDM makes ‘personalized’ medicine more ‘precise’ medicine」

国立がん研究センター 先端医療開発センター 臨床薬理トランスレーショナルリサーチ分野
分野長 濱田哲暢 先生

特別講演2 16：00～16：40（座長：加藤伸一 教授）

「プロスタグランジンE2による炎症惹起の分子機構」

熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）薬学生化学分野
教授 杉本幸彦 先生

閉会の挨拶

加藤伸一 教授

茶話会 16：40～18：00

News お知らせ

人事

任命

学 長	後藤 直正
副学長	教 授 赤路 健一
研究科長	教 授 赤路 健一
教務部長	教 授 秋葉 聡
学生部長	教 授 長澤 一樹
進路支援部長	教 授 栄田 敏之
図書館長	教 授 安井 裕之
バイオサイエンス研究センター長	教 授 山本 昌
教育研究総合センター所長事務取扱	学 長 後藤 直正
薬学教育研究センター長	教 授 細井 信造
情報処理教育研究センター長	教 授 藤原 洋一
学生実習支援センター長	教 授 北出 達也
生涯教育センター長	教 授 北出 達也
分析薬科学系長	教 授 北出 達也

（以上 任期：2016. 4. 1～2018. 3. 31）

採用

事務局	事務局長 山下 馨
	（以上2016. 5. 1付）
医療薬科学系薬剤学分野	助 教 草森 浩輔
事務局研究・産学連携推進室	室 長 武野 薫
事務局庶務課	事務員 小嶋 裕介
	（以上2016. 7. 1付）
（契約事務職員）	
事務局庶務課	契約事務職員（事務員）枝 郁子
事務局進路支援課	事務員 西村 裕世
	（以上 2016. 4. 1付）

再任

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 講 師 本橋 秀之
（任期：2016. 7. 1～2021. 6. 30）

《試験日程》

2016年度の試験日程は【表1】のとおりです。各学年とも進級・卒業要件をよく確認するようにしてください。試験日時を間違えるケースが時々見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、再試験受験までに教務課で再発行を受けてください。

人と文化選択科目の不合格科目については、再試験手続をしなかった場合、放棄とみなします。放棄科目については、履修した年度内は平均点に算入されますが、翌年度には平均点の算出対象外となります。

シラバス「学修の手引き」の項にも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでおいてください。

【表1】

年	試験	試験期間	合格発表等	手続等
2016	1～4、6年次生 前期試験	7月22日(金)～ 8月2日(火)	8月23日(火)に発表予定 (Web公開)	—
	2～4年次生 前年次・前々年次科目 再試験	9月1日(木)～ 9月6日(火)	成績通知書を配付	4月21日(木)・22日(金)
	1～4、6年次生 前期科目再試験	9月7日(水)～ 9月13日(火)	成績通知書を配付	前期試験の再試験受験 手続日:8/24(水)・25(木)
	4年次生 薬学共用試験/OSCE本試験	12月17日(土)・18日(日)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
2017	6年次生 薬学特別演習本試験	1月10日(火)・11日(水)	1月20日(金)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 後期試験	1月18日(水)～ 1月20日(金)	1月30日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3年次生 後期試験	1月20日(金)～ 1月30日(月)	2月13日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 薬学共用試験/CBT本試験	1月26日(木)・27日(金) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	6年次生 薬学特別演習再試験	2月6日(月)・7日(火)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	薬学特別演習の再試験受験 手続日:1/23(月)・24(火)
	4年次生 後期科目再試験	2月7日(火)～2月10日(金)	2月17日(金)に発表予定 (Web公開)	後期試験の再試験受験 手続日:1/31(火)・2/1(水)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月22日(水)～ 3月1日(水)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	後期試験の再試験受験 手続日:2/14(火)・15(水)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】 再試験Ⅱ受験 手続日:1/31(火)・2/1(水) 【後期科目】 再試験Ⅱ受験 手続日:2/20(月)・21(火)
	4年次生 薬学共用試験/CBT追・再試験	3月6日(月)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	4年次生 薬学共用試験/OSCE追・再試験	3月9日(木)		

《成績通知・合格発表日程》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から、3～6年次生は分野主任から、学生証提示の上、受け取ってください。代理受取はできません。なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区分	年次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年	10月3日(月)～ 10月11日(火)	10月下旬
後期終了時の 成績通知書	6年次	2月16日(木)～ (卒業査定会終了後に配付)	—
	1～5年次	3月23日(木)～ (進級査定会終了後に配付)	4月中旬～下旬

2017年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1.入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

	特別選抜 推薦入学		一般選抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2017年3月卒業見込者 および 2016年3月卒業者※ 評定平均値 3.2以上	2017年3月卒業見込者 および 既卒者		

※文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2016年3月修了者および2016年4月以降2017年3月末までに修了又は修了見込者を含みます。＜出願資格については、それぞれの入学試験要項で確認してください＞

2.入学試験関係日程

	推薦入学		一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
	指定校制	一般公募制			
出願期間	2016年11月 1日(火) ～ 2016年11月 8日(火) 必着		2017年1月 6日(金) ～ 2017年1月13日(金) 当日消印有効	2017年1月 6日(金) ～ 2017年1月23日(月) 当日消印有効	2017年2月23日(木) ～ 2017年3月 6日(月) 当日消印有効
試験日	2016年11月14日(月)	2016年11月19日(土)	2017年1月14日(土) 2017年1月15日(日) 個別試験はなし	2017年2月3日(金)	2017年1月14日(土) 2017年1月15日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2016年11月29日(火)		2017年2月15日(水)	2017年2月14日(火)	2017年3月14日(火)
入学手続 期限	2016年12月16日(金) 必着 (入学金・授業料(前期分)納付期限) (入学手続書類等提出期限)		2017年3月24日(金) 必着 (授業料(前期分)納付期限) (入学手続書類等提出期限)		

<出願は全て郵送のみ>

3.検査項目等

推薦入学 (指定校制)	面接および調査書を基に総合的に判定します。	区分 一般A方式 (センター前期)	配点
		数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B 200
		外国語	英語 [リスニングの成績は利用しません] 200
		国 語	国語 [近代以降の文章のみ利用します] 100
		理 科	化学 [必須]、 物理、生物から1科目 [選択] 200
推薦入学 (一般公募制)	配点	区分 一般B方式 (一般入試)	配点
適性検査 Ⅰ:英語 (コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、 英語表現Ⅱ)	100	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、 数学B [数列、ベクトル] 200
Ⅱ:化学 化学基礎、化学	100	外国語	英語 (コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、 コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、 英語表現Ⅱ) 200
面接	40	理 科	化学基礎、化学 200
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20	区分 一般C方式 (センター後期)	配点
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがあります。		数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B 200
		外国語	英語 [リスニングの成績は利用しません] 200
		理 科	化学 [必須]、 物理、生物から1科目 [選択] 200

4. 試験場

推薦入学試験／一般入学試験B方式
京都薬科大学キャンパス

※詳細については入学試験要項でご確認下さい。お問い合わせ：入試課 TEL075-595-4678/FAX075-583-2232

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野) 19分野等	(募集分野、協力分野) 11分野	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	(1)大学(6年制薬学部)を卒業した者 (2017年3月末日までに卒業見込の者を含む) (2)4年制薬学部を卒業し、実務経験を2年以上有し、薬剤師免許を有している者(入学時において) (3)外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者 (4)その他、本学大学院において6年制薬学部を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者	(1)修士(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系大学大学院において修士の学位を得た者(2017年3月末日までに当該学位取得見込の者を含む) (2)外国において前号と同等以上と認められる課程を修了した者(修了見込の者も含む) (3)大学を卒業したのち社会人として、大学・官公庁・企業・病院等において出願時に2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院において認められた者 (4)その他、本学大学院において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者	<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 細胞生物学分野、生化学分野 病態生理学分野、病態生化学分野 薬物治療学分野、臨床薬理学分野 薬理学分野、臨床腫瘍学分野 薬剤学分野、薬物動態学分野 臨床薬学分野、臨床薬学教育研究センター (協力分野) 生薬学分野、 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 <薬科学専攻> 募集分野 薬品化学分野、生薬学分野 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 (協力分野) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、薬理学分野、薬剤学分野
主な出願書類	(1)入学願書 (2)成績証明書(本学卒業(見込)者を除く) (3)卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可)※1 (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(2)の者は薬剤師免許の写し (6)卒業・修了(見込)証明書※2 (7)出願資格(3)の者は住民票※3	(1)入学願書 (2)成績証明書(本大学院修了(見込)者を除く) (3)修士論文及び修士論文の要旨(英文可)※1 (4)志願者名票・受験票 (5)研究業績録 (6)修了(見込)証明書※2 (7)出願資格(2)の者は住民票※3	※1卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※2本学卒業・修了(見込)者を除く ※3学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可(任意)。その場合、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日	出願期間	(夏季募集) 2016年7月 8日(金) ~ 2016年7月22日(金) [必着] (冬季募集) 2017年1月 6日(金) ~ 2017年1月17日(火) [必着]	
	試験日	(夏季募集) 2016年8月22日(月) (冬季募集) 2017年1月31日(火)	
	合格発表日	(夏季募集) 2016年8月29日(月) 午後(予定) (冬季募集) 2017年1月31日(火) 午後(予定)	
入学手続期限	2017年3月17日(金) 入学金納付期限, 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
選面 面接試問 考	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
 事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を寄贈しました。実務実習前の事前学習として活用することができ、大変喜ばれています。また、今年度実務実習に臨む5年次生を対象に白衣授与式が行われ、学生1人につき大学名入りの白衣2着が授与されました。2着のうち、1着は大学、もう1着は教育後援会で補助しています。この事業は今年度から開始し、来年度以降も続けていく予定をしています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

		一般入試	社会人入試	備考
募集人員		5名		
募集分野		若干名	若干名	(募集分野)
出願資格		薬科学専攻 11分野	薬科学専攻 11分野	薬品製造学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野、細胞生物学分野 生化学分野、薬理学分野 薬剤学分野
主な出願書類		(1) 大学を卒業した者(2017年3月末日までに卒業見込の者を含む) (2) 本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者*1 (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者(出願時において)	*1: 文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校専攻科を修了した者について、薬科学研究に必要な科目を履修した者を含む。
関係日程	出願期間	2016年7月 8日(金) ~ 2016年7月22日(金) [必着]		※ 学術交流協定大学の卒業生(見込)は大学長等の正式な推薦状で代用可(任意)。その場合、入学手続き時に住民票の提出を求める。
	試験日	2016年8月22日(月)		
	合格発表日	2016年8月29日(月) 午後(予定)		
	入学手続き期限	2016年9月16日(金) 入金納付期限 2017年3月17日(金) 授業料前期分納付期限, 入学手続き書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	—————	*2: 系 I系 創薬科学系 薬品製造学分野、薬品化学分野 生薬学分野 II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野、 薬品物理化学分野 III系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野、 生化学分野 IV系 病態薬科学系 薬理学分野 V系 医療薬科学系 薬剤学分野
	薬学専門	I ~ V系*2の11問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)	—————	
	小論文他	—————	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

本学で開催の「2016年度 卒業教育講座」を著作権・プライバシー等に抵触するスライドや音声を編集(削除・修正)し、WEB公開いたします。したがって、内容は本学で開催の講演とは異なります。

前期配信 2016年12月1日(木)～12月22日(木)	
1	パーキンソン病 - 診断・治療の最新情報 - 京都大学大学院 医学研究科 脳病態生理学講座 臨床神経学(神経内科) 教授 高橋 良輔 先生
2	不眠症薬物療法の最新トピックス 滋賀医科大学医学部 睡眠行動医学講座 特任教授 睡眠センター センター長 角谷 寛 先生
3	「地域包括ケアの完成を目指して」 ～三方よし研究会の試み～ 医療法人社団 小串医院 理事長 NPO法人 三方よし研究会代表 小串 輝男 先生
4	がん薬物療法の最新の話 京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 准教授 松本 繁巳 先生
後期配信 2017年1月10日(火)～1月31日(火)	
1	緩和医療 大阪府済生会野江病院 消化器外科 副院長兼部長 足立 幸人 先生
2	婦人科疾患と漢方 関西医科大学総合医療センター 産婦人科 医師 梶本 めぐみ 先生
3	機能性農作物による疾病予防 京都府立医科大学 学長 吉川 敏一 先生
4	ウイルス性肝炎の最新の治療 大津市民病院 総合内科・消化器内科(肝臓部門) 診療部長 高見 史朗 先生

*詳細はホームページ (<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>) をご参照ください。

*申込受付期間、プログラム内容、配信期間等は変更される場合があります。

*申込受付期間終了後でも定員にゆとりがあれば、申込受付できる場合があります。お問合せください。

*各ビデオ(1コマ/100分前後)は、各視聴期間中(前期・後期)、1コマにつき5回のみ視聴可です。

■ 認定単位

*認定機関：共催 公益財団法人 日本薬剤師研修センター

*単位数：G01(1コマ/1単位配信)計8コマ/計8単位(認定条件をみたすビデオのみ)

*配信条件：1コマ毎に確認テストを実施。1テスト(3問)につき、正答率60%以上で認定単位を各配信期間(前期・後期)終了ごとに後日一括送付

■ 申込方法等

*申込受付期間：2016年9月26日(月)～10月23日(日)

*申込方法：WEB限定受付(TEL、FAX、メールでの受付不可) <http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

*受講者：薬剤師(京都薬科大学および本学以外の薬系大学の卒業生)

*定員：100名

*受講料：15,000円

*お支払されました受講料は、キャンセル・部分受講等による返金または一部返金の取扱いをいたしませんのでご了承ください。

■ お問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

・TEL：075-595-4677 (TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00)

・FAX：075-595-4683 (24時間受付)

・E-mail: skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

*お電話をいただきました際に会議などで不在にしている時があります。その場合は、しばらく時間を空けてからおかけ直してください。

平成28年熊本地震でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

京都薬科大学 理事長 武田 禮二
学 長 後藤 直正

NEWS 熊本地震への対応について

学生課

2016年4月14日（木）、4月16日（土）に発生した熊本地震により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地等におきまして、救援などの活動にご尽力されている方々に深く敬意を表しますとともに、皆さまの安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本学では、地震発生後直ちに被災地域出身の学生に対して被害状況の調査を行い、被災した学生に見舞金を支給いたしました。今後も被害状況に応じて授業料の減免等の経済的支援を検討していく予定です。この度の震災により、帰省先が被害に遭われ、修学に支障を来すような被害を受けられた方は、大学までご連絡ください。

NEWS 第1回日本薬学教育学会大会を開催します

臨床薬学分野 教授 西口 工司

この度、2016年（平成28年）8月27日（土）～28日（日）の2日間、本学において、第1回日本薬学教育学会大会（大会長：乾 賢一 京都薬科大学前学長）を開催させていただくことになりました。

近年、教育プログラムの改善・充実に向けた科学的アプローチの推進に加えて、その有効性に関する科学的な検証や評価の実践が推奨されております。薬学においても例外ではなく、薬学教育を対象とした研究の充実・発展が望まれています。そこで、このような薬学教育を対象とした研究活動を活性化し、サイエンスとしての「薬学教育学」を確立する目的で「日本薬学教育学会」が設立されるとともに、学生のまち京都において第1回大会を開催させていただくことになりました。今大会のテーマは『薬学教育の原点—Science・Art・Humanity—』です。サイエンスとしての薬学教育学の確立に向け、薬学教育を原点から見つめ、今後、何をなすべきなのかについて議論できる場を提供させていただきたいと思っております。大学教職員をはじめ、薬剤師、学生（学部、大学院）、病院・薬局・企業の教育研修担当者など、広く薬学の教育に携わる関係者が一堂に会し、薬学教育に関する学術活動が活発に展開されることを期待しています。ぜひとも熱い議論にご参加いただきますとともに、古都京都を満喫していただきますよう、多数の方々のご参加を心よりお待ちしております。

第1回
日本薬学教育学会大会
The 1st Annual Meeting of Japan Society for Pharmaceutical Education
薬学教育の原点
- Science・Art・Humanity -
会期: 2016年8月27日(土)・28日(日)
会場: 京都薬科大学 (JR山科駅より徒歩10分)
大会長: 乾 賢一 (京都薬科大学)
特別講演
「医療系教育学会の使命: 医学教育から薬学教育への期待」
鈴木 康之 (岐阜大学医学教育開発研究センター)
「医療人教育におけるプロフェッショナリズム」
中島 宏昭 (昭和大学医学部)
シンポジウム
「薬学教育の充実・発展に向けた取組」
「アウトカムを意識した薬学実務教育のこれから」
「薬学教育研究、事始め」
「教育学・学習科学の現状と展望」
ワークショップ
「症例からの臨床判断とトリアージ」(8月26日)
「シグナー法でシグナー法を学ぶ」
「ワールド・カフェ体験—薬学教育のコト、語りませんか?」
一般演題 (ポスター発表)

なお、詳細は、大会ホームページをご確認ください。

- ・大会ホームページ: <http://jspe2016.hcom.co.jp/>
- ・大会事務局: 京都薬科大学 医療薬科学系

臨床薬学分野内 (西口工司)

〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5
E-mail: jspe2016@mb.kyoto-phu.ac.jp

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価を Semester 毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員および学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

2015年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下のとおり報告します。

◆今回から設問項目を全面的に見直し、「教員の授業に関する項目」と、「学生自身の授業での学ぶ態度」について別々に評価をしてもらいました。

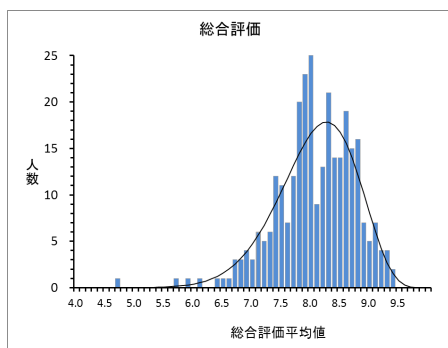
■この教員の授業について

設 問	2015年度 評価 (5段階)
Q1 授業の到達目標は明確に示されていた。	4.3
Q2 説明の仕方がいいでわかりやすかった。	4.2
Q3 教科書や説明資料は適切でわかりやすかった。	4.2
Q4 私語や態度の悪い学生に注意するなど、円滑に授業が行われるよう配慮されていた。	4.1
Q5 授業内容に対する関心を高める工夫がなされていた。	4.2
Q6 学生の質問や発言を促す工夫がなされていた。	4.0

■学生の授業での学びについて

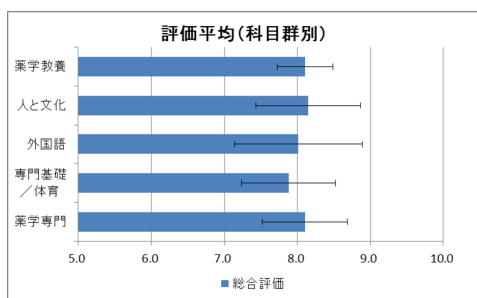
設 問	2015年度 評価 (5段階)
Q1 この授業の出席率を教えてください。(100%、90%程度、80%程度、70%程度、60%以下の5段階)	4.9
Q2 授業外学習をするなど、この授業に対して意欲的に取り組んだ。また、授業が円滑に進行できるよう、私語や居眠りをせず集中して受講した。	4.1
Q3 シラバス等により、授業内容や到達目標を事前に確認して講義にのぞんだ。	3.7
Q4 授業の到達目標を達成できた。	3.9
Q5 授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからより深く学びたいと思った。	4.0
Q6 質問や議論等により、教員や他の学生と積極的にコミュニケーションをとった。	3.8

◆教員個人別の総合評価の分布は、平均値8.07でした。

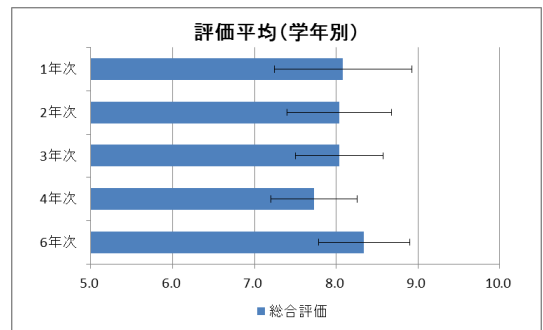


◆授業科目群、学年および職位別の総合評価は以下のグラフのとおりです。

1) 総合評価と授業科目群

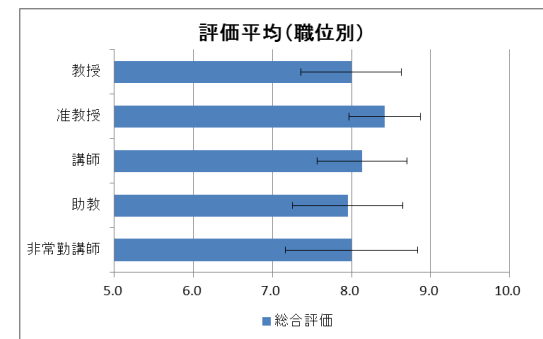


2) 総合評価と学年

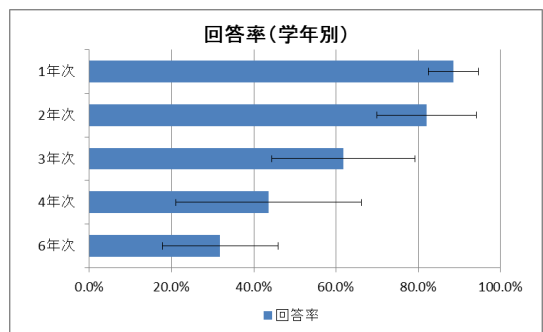


※5年次に授業評価アンケート対象科目はありません。

3) 総合評価と職位



◆学年ごとのアンケート回答率では、学年が上がるにつれて回答率が顕著に減少しました。



最後に、授業アンケートに協力してくれた学生諸君に感謝するとともに、授業改善のために、アンケートの回答率の向上を目指したいと思います。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答への協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

- 2016年 -

■2月27日(土)～28日(日)

第4回がんプロ国際シンポジウム

薬学専攻博士課程4年次生 戸田侑紀さん(薬品化学分野)が優秀演題賞を受賞しました。

演題: The Challenge to Cancer-Targeting using Exosomes

■3月2日(水)

2015年度薬学研究科薬科学専攻博士前期課程修士学位論文口述発表及びポスター発表
博士前期課程2年次生2名が口述発表及びポスター発表を行いました。

■3月8日(火)

第19回「とにかく英語を口にしよう」

—米国ウィスコンシン州立大学における臨床薬学教育— 中村暢彦講師(臨床薬学教育研究センター)

米国ウィスコンシン州立大学に半年間滞在し、経験した臨床薬学教育や薬剤師の様子が紹介されました。
教育職員、大学院生など15名が参加し、活発な質疑応答が行われました。



第19回 中村講師

■3月17日(木)

2015年度海外留学報告会

第1部 科学振興基金大学院生海外留学助成金に係る報告会

薬学専攻博士課程4年次生 戸田 侑紀(薬品化学分野)

薬学専攻博士課程4年次生 松本 崇宏(生薬学分野)

■3月19日(土) 学位記授与式

薬学専攻博士課程5名、薬科学専攻博士前期課程2名、薬科学専攻博士後期課程2名、論文博士1名が学位を授与されました。

■4月2日(土) 入学宣誓式

薬学専攻博士課程14名、薬科学専攻博士前期課程1名、薬科学専攻博士後期課程2名の皆さんが入学されました。

■4月14日(木)

第20回「とにかく英語を口にしよう」

—From Egypt to Japan; One year of happiness—

薬学専攻博士課程2年次生 Nahla Hamouda(薬物治療学分野)

エジプトと日本での様子が映像や写真をふんだんに使って紹介されました。

職員、大学院生だけでなく、学部生や外国人研究者など24名が参加し、盛況でした。



第20回 Nahlaさん

NEWS クラブだより その1

管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。経験の有無を問わず様々な学生が集まり、年に一回行われる定期演奏会を大きな目標に日々練習に取り組んでいます。春は、学生指揮者を中心に基礎練習・セクション練習に力を入れて練習を重ねてきました。基礎力の重要さが身に沁み、自分たちの演奏に足りないものを再確認することができました。さて、今年も新たなメンバーが加わり11月26日開催予定の定期演奏会に向けてより一層士気も高まってきました。まだまだ披露できるものではありませんが、これからどう伸びていくのか今から部員一同楽しみます。これからも管弦楽部をよろしくお願ひします!

学校法人京都薬科大学2015年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、2016年5月23日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

当年度の主な施設整備事業は、本学の創立130周年記念事業の一環としての中央講堂兼体育館の建替工事が完了しました。この建物は、2014年9月から建築工事が始められ、約1年半の工事期間を終え2015年12月に竣工し「創立130周年記念館」と命名されました。施設は、地上3階建（建築面積2,703.58㎡、延床面積3,611.37㎡）で1階には、体育館（講堂）及び舞台、エントランスロビー、ピロティが、2階には、トレーニングルーム、更衣室、シャワー室、ギャラリー固定席があり、3階には研究室等があります。講堂利用時の機能として常設プロジェクターと舞台に300インチスクリーン、フロアに壁面収納式の全自動型観覧席（512席）を併設し、2階固定席（60席）並びに移動椅子も含め約1,000席を確保しています。また、2階のトレーニングルームには、授業やクラブ活動の場にふさわしい最新型のトレーニング器具を取り揃えています。また、屋上には、100kWの太陽光発電パネルを設置し、本記念館のみならず学内の各施設に給電しています。さらに災害時の活用を考え、20kWの蓄電池を設置しています。また、この記念館は、災害時の地域の避難施設としても位置付けられています。さらに、建物東側に歩道や植栽帯を、五条別れ交差点にポケットパークを設けるなど、学生や近隣住民の通行の安全を確保するというような配慮も行っています。

その他の主な事業としましては、前年度に引き続き文部科学省が所管する助成事業に積極的に申請し、私立大学改革総合支援事業のうち、タイプ1「教育の質的転換」に採択された他、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に新規2件、継続2件の合計4件（補助金額58百

万円）、私立大学等教育研究装置施設整備費補助金が2件（7百万円）、私立大学等研究設備整備費等補助金が2件（23百万円）、大学改革推進等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）が1件（10百万円）、私立大学等教育研究活性化設備整備事業が1件と多くの競争的資金を獲得しました。また、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備事業費として3億円を組入れました。さらに、第3号基本金には、本学の奨学金制度の充実を図る奨学基金に3億円、若手研究者の研究活動を積極的に支援する科学振興基金として1億円、合計4億円を組入れました。

学校法人会計では、学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成25年4月22日文科科学省令第15号）が平成27年4月1日に施行され、平成27（2015）年度以降の計算書類に適用されることとなりました。以下はその主な改正内容です。

- ①当該会計年度に応じたすべての資金の収入と支出の内容を示す「資金収支計算書」に基づき、新たに活動区分ごとの資金の流れがわかる「活動区分資金収支計算書」の作成が義務づけられました。
- ②消費収入及び支出並びにその均衡を示す「消費収支計算書」は様式が変更され、「事業活動収支計算書」となりました。「事業活動収支計算書」では、教育活動と教育活動外の経常的な収支のバランスと臨時的な特別収支のバランスを区分して表示しています。
- ③保有する資産の調達源泉（他人資本・自己資本）を明確にするため、旧基準の貸借対照表における「基本金の部」、「消費収支差額の部」を合わせて「純資産の部」（自己資本）とし、その中で、「基本金」と「繰越収支差額」に分けて内訳を表示することとなりました。

新基準に基づく2015年度決算の概要は以下のとおりです。

■ 資金収支計算書総括表（表1）

学生生徒等納付金収入は、入学者数が定員360名に対し372名となったことなどで予算額を上回り4,298百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より減少したことなどで、予算額を下回り、88百万円となりました。寄附金収入は、予算額を上回り81百万円となりました。これは、奨学金制度充実のための奨学寄附金、研究助成を目的とした企業等からの一般寄附金が、予算額を大幅に上回ったことによるものです。補助金収入は、527百万円で予算額を8百万円上回り、対前年比で一般補助が30百万円増、特別補助が37百万円の増となりました。資産売却収入は、各種事業資金の充実を図るため、売却差益の獲得及び利率の高い銘柄への移行を目的として国債の買替えを行いました

た。付随事業・収益事業収入は、企業等からの受託事業が増え、事業収入全体では予算額を4百万円上回り40百万円となりました。受取利息・配当金収入は、174百万円で予算額を3百万円上回りました。雑収入は151百万円で、主なものは私立大学退職金財団からの交付金です。その他の収入では、国債の買い替えにより予算額を大きく上回り、3,421百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、当初計画通りの採用・補充ができなかったため、1,860百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、省エネ対策等による光熱水費の減少、業務委託等の減少等により、予算額を下回り1,271百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り264百万円となりました。施設関係支出では、創立130周年記念館の建設工事費、育心館外壁工事改修工事、躬行館改修工事、南校地環境整備工事などで、1,661百万円となりました。設備関係支出では、補

助金事業に採択され購入した教育研究用機器備品及び実習用機器などの整備で196百万円となり予算額を21百万円上回りました。資産運用支出は、国債の買替え及び資産運用収入の引当特定資産への繰入れなどで、3,338百万円となりました。主なものは、有価証券購入支出に1,194百万円、第2号基本金引当特定資産に307百万円、第3号基本金引当特定資産に1,548百万円、第4号基本金引当特定資産に11百万円をそれぞれ繰入れしました。

以上により、翌年度繰越支払資金は、2,867百万円となりました。

■ 事業活動収支計算書総括表（表2）

教育活動収支（経常的な事業活動収支のうち、財務活動及び収益事業に係る活動を除いた活動の収入・支出）における事業活動収入のうち、学生生徒等納付金収入は予算に対し96百万円増の4,298百万円となり、経常収入に占める割合（学生生徒等納付金比率）は81.5%と大きな比重を占めています。また、施設設備以外の補助金収入は、483百万円で経常収入に占める割合（経常補助金比率）は9.2%です。教育活動収支における事業活動支出においては、人件費が1,860百万円で経常収入に占める割合（人件費比率）は35.3%です。また、教育研究経費は2,002百万円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は38%となりました。以上により、教育活動収支差額は、871百万円となりました。

教育活動外収支（経常的な事業活動収支のうち、教育活動以外の財務活動及び収益事業に係る活動の収入及び支出）においては、事業活動収入のみとなり、国債、定期預金等の配当金・受取利息が174百万円となりました。これにより、経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は1,046百万円となり、経常収支差額比率（経常的な収支バランスを表す比率）は19.8%となりました。

特別収支（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び支出）では、国債の買替えによる資産売却差益が50百万円となりました。

この結果、特別収支の事業活動収入は、169百万円、事業活動支出は23百万円で、特別収支差額は、146百万円となりました。経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額（従来の帰属収支差

額）は、1,192百万円、事業活動収支差額比率は21.9%となりました。

また、基本金の組入れは、第1号基本金には創立130周年記念館の建設、機器備品購入などにより119百万円、第2号基本金には教育研究総合センター等の整備費に307百万円を組入れています。創立130周年記念館及び南校地環境整備工事のために第2号基本金から第1号基本金に1,315百万の振替を行っています。第3号基本金には奨学基金に307百万円、科学振興基金に100百万円を組入れるなど、基本金組入額合計は、845百万円となりました。この結果、当年度収支差額は347百万円の単年度黒字となり、前年度からの収入超過額372百万円を加え、翌年度繰越収支差額は720百万円の繰越収入超過となりました。

■ 貸借対照表総括表（表3）

有形固定資産は、創立130周年記念館の建設、教育研究用機器備品の購入などに伴う増から、機器備品の廃棄及び減価償却などに伴う減を差引きした結果、前年比1,051百万円増の15,447百万円になりました。固定資産の中科目として新たに設けられた「特定資産」は、第2号基本金から第1号基本金に振替を行いましたので前年比493百万円減の15,465百万円となっています。また、流動資産は、現金預金が656百万円増加し、前年比650百万円増の3,122百万円となりました。その結果、資産の部合計は34,107百万円となり、1,188百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債911百万円は退職給与引当金と教育研究用機器備品リース料の長期未払金を計上しています。流動負債769百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,680百万円となっています。

基本金の部は、前述のとおり第1号基本金には119百万円、第2号基本金には307百万円、第3号基本金には407百万円、第4号基本金に11百万円を組入れています。また、第2号基本金から第1号基本金に1,315百万の振替を行っています。その結果、基本金の部合計は31,706百万円となり、前年比845百万円の増加となっています。翌年度繰越収支差額は、前述のとおり720百万円となり、純資産の部合計は32,426百万円となりました。

以上

表1 資金収支計算書（総括表）

2015年4月1日～2016年3月31日（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,201,500	4,298,150	△ 96,650	人件費支出	1,931,400	1,860,045	71,354
手数料収入	94,400	88,067	6,332	教育研究経費支出	1,479,100	1,271,745	207,354
寄付金収入	68,000	81,055	△ 13,055	管理経費支出	299,100	264,939	34,160
補助金収入	518,900	527,457	△ 8,557	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	1,191,240	△ 1,191,240	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	35,800	40,514	△ 4,714	施設関係支出	1,712,000	1,661,463	50,536
受取利息・配当金収入	171,100	174,880	△ 3,780	設備関係支出	174,800	196,209	△ 21,409
雑収入	141,300	151,938	△ 10,638	資産運用支出	926,300	3,338,654	△ 2,412,354
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	720,400	763,924	△ 43,524
前受金収入	574,200	578,944	△ 4,744	予備費	20,000		20,000
その他の収入	2,096,600	3,421,101	△ 1,324,501	資金支出調整勘定	△ 198,100	△ 206,268	8,168
資金収入調整勘定	△ 717,800	△ 746,599	28,799	翌年度繰越支払資金	2,243,800	2,867,115	△ 623,315
前年度繰越支払資金	2,124,800	2,211,078	△ 86,278				
収入の部合計	9,308,800	12,017,828	△ 2,709,028	支出の部合計	9,308,800	12,017,828	△ 2,709,028

表2 事業活動収支計算書（総括表）

2015年4月1日～2016年3月31日（単位：千円）

事業活動収入の部				事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	4,201,500	4,298,150	△ 96,650	人件費	1,939,800	1,860,228	79,571
手数料	94,400	88,067	6,332	教育研究経費	2,237,400	2,002,046	235,353
寄付金	26,000	37,308	△ 11,308	管理経費	398,500	365,115	33,384
経常費等補助金	477,900	483,173	△ 5,273	徴収不能額等	0	0	0
付随事業収入	35,800	40,514	△ 4,714				
雑収入	141,300	152,056	△ 10,756				
教育活動収入計	4,976,900	5,099,270	△ 122,370	教育活動支出計	4,575,700	4,227,390	348,309
				教育活動収支差額	401,200	871,880	△ 470,680
教育活動外収入				借入金等利息	0	0	0
受取利息・配当金	171,100	174,880	△ 3,780	その他の教育活動外支出	0	0	0
その他の教育活動外収入	0	0	0	教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収入計	171,100	174,880	△ 3,780	教育活動外収支差額	171,100	174,880	△ 3,780
				經常収支差額	572,300	1,046,760	△ 474,460
特別収入				資産処分差額	10,000	14,123	△ 4,123
資産売却差額	0	50,088	△ 50,088	その他の特別支出	0	8,987	△ 8,987
その他の特別収入	93,000	119,168	△ 26,168	特別支出計	10,000	23,110	△ 13,110
特別収入計	93,000	169,256	△ 76,256	特別収支差額	83,000	146,146	△ 63,146
				〔予備費〕	20,000		20,000
				基本金組入前当年度収支差額	635,300	1,192,906	△ 557,606
				基本金組入額合計	△ 955,900	△ 845,523	△ 110,376
				当年度収支差額	△ 320,600	347,382	△ 667,982
				前年度繰越収支差額	372,600	372,957	△ 357
				基本金取崩額	0	0	0
				翌年度繰越収支差額	52,000	720,339	△ 668,339

(参考)

事業活動収入計	5,241,000	5,443,407	△ 202,407
事業活動支出計	4,605,700	4,250,500	355,199

表3 貸借対照表（総括表）

2016年3月31日現在（単位：千円）

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	30,985,052	30,447,155	537,896	固定負債	911,067	914,948	△ 3,880
有形固定資産	15,447,724	14,396,145	1,051,578	流動負債	769,787	770,251	△ 464
特定資産	15,465,093	15,958,207	△ 493,113	負債の部合計	1,680,854	1,685,200	△ 4,345
その他の固定資産	72,234	92,802	△ 20,568	純資産の部			
流動資産	3,122,619	2,471,954	650,664	基本金	31,706,476	30,860,952	845,523
				繰越収支差額	720,339	372,957	347,382
				純資産の部合計	32,426,816	31,233,910	1,192,906
資産の部合計	34,107,671	32,919,110	1,188,560	負債及び純資産の部合計	34,107,671	32,919,110	1,188,560

(注1) 減価償却の累計額の合計額 9,281,644千円 (注2) 表1、表2、表3とも単位未満切捨て

News クラブだより その2

茶道部

茶道部は毎週火曜日に外部から先生を招いてお稽古をしています。部員は4年次生が11人、3年次生が6人、2年次生が9人です。京菓祭で着物をきてお抹茶と和菓子を出しました。

4月には建仁寺でお茶会を開きました。本席では4年次生が、副席では2年次生がお点前を披露しました。3年次生は水屋の仕事を通してお茶会全体を支えました。午前中はあいにくの雨でしたが、午後からは晴れ大盛況に終わりました。4年次生はこのお茶会をもって引退です。2年次生は初めてのお茶会だったので緊張しましたが、先生やOGさんのサポートもあり貴重な経験になりました。

日本の文化に触れ、たくさんの知識を学ぶことができる部活です。

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。私たちマンドリン部は年に一度の定期演奏会に向けて練習に励んでいます。和気あいあいとした雰囲気の中、皆で音楽や合奏することに楽しみを見出しながら、頑張っています。今年は特に、大勢の新入部員が入ってきてくれ、また熱心に練習に取り組んでいて、先輩と後輩の交流もより活発になっています。5月初めには京都にある10大学が集まった全日本学生マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会に参加し他大学とも交流してきました。この経験を自分たちの演奏や練習にも生かしていきたいと考えているところです。

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

平成28年度は、新規で49件申請して19件が採択されました（新規採択率38.78%）。

前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は49件、平成28年度交付予定総額は80,470千円（他機関への転出者含む）となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。研究活動スタート支援（新規分）は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・継続
基盤研究(B)	赤路 健一	薬品化学分野	16H05104	基質配列の非ペプチド化に基づくプロテアーゼ阻害剤設計戦略の開拓	7,150	新規
"	斎藤 博幸	薬品物理化学分野	25293006	アポリポタンパク質によるHDL産生・代謝調節機構の物理化学的基盤解明と創薬展開	2,990	継続
基盤研究(C)	坂根 稔康	薬剤学分野	16K08208	肥満症に対する新規治療システムの開発：鼻腔内投与による生理活性ペプチドの脳内送達	1,430	新規
"	中山 祐治	生化学分野	16K08253	チロシン酸化シグナルによる染色体分配制御機構の解明	1,560	新規
"	長澤 一樹	衛生化学分野	16K08284	うつ病におけるP2X7受容体及び亜鉛を介したシグナリングの協調的連関の変動	1,690	新規
"	大矢 進	薬理学分野	16K08285	炎症慢性化によるイオンチャネル発現・活性変動の機序解明とその創薬への応用	1,820	新規
"	高田 和幸	病態生理学分野	16K08286	アルツハイマー病の細胞治療法の開発に向けた多種幹細胞由来Aβ食細胞の機能解析	1,690	新規
"	松本 健次郎	薬物治療学分野	16K08287	難治性消化管疾患の病態制御における温度感受性TRPV4チャネルの役割	1,950	新規
"	松田 久司	生薬学分野	16K08312	抗AGEs作用を基盤とした糖尿病合併症治療薬の開拓	1,430	新規
"	小島 直人	薬品製造学分野	16K08330	新規抗がん剤の創製を指向したアセトゲン誘導体のTHF環部分の構造活性相関研究	1,300	新規
"	西口 工司	臨床薬学分野	16K08423	がん微小環境でのビスホスホネート薬の作用解析に基づく食道がん新規治療標的の探索	1,560	新規
"	本橋 秀之	臨床薬学教育研究センター	16K08424	大規模データを用いた疾患特異的な副作用解析と科学的根拠にもとづく対策法への応用	910	新規
"	中田 晋	臨床腫瘍学分野	16K08722	Wnt/Shh/低酸素経路の悪循環とクロストークを遮断しうる脳腫瘍治療標的の同定	1,820	新規
"	松村 千佳子	臨床薬学教育研究センター	16K08891	患者QOL向上をめざした緩和医療における薬学的支援方法の確立	780	新規
"	藤井 正徳	薬理学分野	16K09000	アトピー性皮膚炎の痒みにおけるMrgrprの役割の解明	2,600	新規
"	武上 茂彦	薬品分析学分野	15K07906	フッ素MR I マルチカラーイメージングを目指した新規機能性イオン液体ナノ粒子の創製	1,300	継続
"	濱 進	薬品物理化学分野	15K07907	腫瘍微小環境応答性ペプチド搭載核酸キャリアーの開発と肝転移がん治療への展開	1,430	継続
"	藤室 雅弘	細胞生物学分野	15K07952	Wntシグナルと小胞体ストレス応答を標的としたKSHV分子海賊機構の解明	1,560	継続
"	伊藤 由佳子	薬物動態学分野	15K08085	オキサリプラチンベース化学療法における有害事象予防システム	1,820	継続
"	勝見 英正	薬剤学分野	15K08600	活性酸素消去による転移性前立腺癌治療を目指した体内動態制御型白金ナノ粒子の創製	1,430	継続
"	辻本 雅之	臨床薬学分野	15K08601	慢性腎臓病患者において生じる予測不能の薬物相互作用のメカニズム解明	1,430	継続
"	吉貴 達寛	臨床腫瘍学分野	15K10585	私達が同定した新規細胞増殖因子に対するペプチド型抗がん剤の開発	1,690	継続
"	石原 慶一	病態生化学分野	25460077	ダウン症マウスモデルの脳発達遅滞および記憶学習障害の分子基盤解明と炎症亢進	1,170	継続
"	野崎 亜紀子	一般教育分野	26380020	リスク社会における自由と協働の秩序	1,560	継続
"	細井 信造	薬学教育研究センター	26460019	誘起CDに基づく実用的絶対配置決定法の確立とその起源解明への量子化学的アプローチ	1,690	継続
"	山本 昌	薬剤学分野	26460052	生体分解性マイクロニードルを用いたテリパチドの次世代型経皮吸収剤の開発	1,430	継続
"	久家 貴寿	生化学分野	26460081	FAM83H遺伝子変異に起因するエナメル形成不全症の発症メカニズム解析	910	継続
"	天ヶ瀬 紀久子	薬物治療学分野	26460109	グルタミン酸によるヘリコバクター・ピロリ関連胃病変の発生と定着抑制機序の解明	1,300	継続
"	秋葉 聡	病態生化学分野	26460110	I V A型P L A 2を病態制御標的分子とした脂肪肝炎の発症機構と進展阻止に関する研究	1,560	継続
"	中村 誠宏	生薬学分野	26460135	メディシナルフラワーを素材とした潰瘍性大腸炎治療物質の開発	1,560	継続
"	渡辺 徹志	公衆衛生学分野	26460178	炎症・アレルギー性物質の長距離大気輸送及びその生物活性の解明	1,430	継続
"	長谷川 功紀	共同利用機器センター	26460453	肺小細胞癌診断に向けたCXCR4標的薬を用いる染色法とSPECTプローブ開発	1,560	継続
"	安井 裕之	代謝分析学分野	26460636	抗糖尿病薬として内因性インスリンの作用を調整・増強する経口亜鉛製剤の開発	1,040	継続
"	芦原 英司	病態生理学分野	26461436	骨髄低酸素微小環境に潜む多発性骨髄腫幹細胞の根絶をめざした新規治療法の開発	1,430	継続

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額 (千円)	新規・ 継続
挑戦的萌芽研究	河嶋 秀和	放射性同位元素研究センター	15K15459	炎症性マクロファージ様細胞を標的とした新規放射性分子プローブの開発研究	1,170	継続
若手研究(B)	扇田 隆司	薬品物理化学分野	16K18529	細菌Ⅲ型分泌装置の回転運動に基づくエフェクター分泌機構の解明	1,430	新規
"	渡部 匡史	細胞生物学分野	16K18925	カボジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製におけるウイルス性前開始複合体の分子基盤の解明	2,080	新規
"	峯垣 哲也	臨床薬学分野	16K18964	PARP阻害剤を用いた食道癌セカンドライン化学療法法の構築に関する基礎的研究	1,300	新規
"	林 直樹	微生物・感染制御学分野	16K19129	腸管上皮細胞への指向性を誘起する緑膿菌の感知機構の解析	1,040	新規
"	鬼頭 宏彰	薬理学分野	16K21474	骨代謝におけるカルシウムシグナルを制御するイオンチャンネルと骨免疫疾患との関連	2,080	新規
"	坂本 尚志	一般教育分野	15K16612	『分析手帖』の研究—1960年代フランスにおける「概念の哲学」の発展	910	継続
"	河下 映里	病態生化学分野	15K18380	加齢性認知症の治療戦略に向けた神経可塑性の新たな制御因子の役割	2,210	継続
"	草森 浩輔	薬剤学分野	15K18850	がん標的型高性能細胞製剤の開発および難治性がん治療への応用	1,820	継続
"	小林 数也	薬品化学分野	15K18902	N-アミジノ含窒素環状骨格を基盤としたBACE1阻害剤の開発研究	1,820	継続
"	河淵 真治	薬物動態学分野	15K18937	母集団PK-PD解析による血漿中薬物濃度を用いたがん化学療法法の個別化	1,560	継続
"	西田 健太郎	衛生化学分野	26860090	味噌におけるATPクリアランス機構に着目した抗がん剤による味覚障害発症機構の解明	1,300	継続
"	齊藤 洋平	生化学分野	26870701	腫瘍組織における熱ショックタンパク質Hsp105の発現亢進とその癌悪性化誘導	1,170	継続
"	沼尾 成晴	健康科学分野	26870702	筋肉・脂肪組織由来の新規生理活性物質からみた心疾患患者に対する運動療法の効果	1,170	継続
研究活動スタート支援	塚原 卓矢	薬物治療学分野	15H06727	Gタンパク共役型脂質受容体の消化管炎症の調節における役割の解明	1,430	継続

卒業生からのメッセージ

Column.

広い視野を持てるように

瀬川 将平



2008年 学部卒業（衛生化学分野）
 2010年 博士前期課程修了
 （衛生化学分野）
 2014年 博士後期課程単位取得退学
 （衛生化学分野）
 2015年 博士号取得
 沢井製薬株式会社 製剤研究部
 製剤Ⅲグループ研究員

私は2010年に本学の修士課程を修了後、沢井製薬株式会社に入社し、ジェネリック医薬品の製剤設計などを担当する製剤研究部に所属しています。2011年からは社会人として本学の博士課程に入学して博士号を取得しました。約11年間、京都薬科大学にお世話になりましたが、その間に大学は6年制になり、キャンパスも大きく変わりました。入学時は愛学館が工事中でしたが、その後次々に新しい建物が立ち、キャンパスがきれいになりました。今の学生がそのような環境で学生生活を送れることを羨ましいと思う反面、自分が過ごした学生時代の面影がなくなって寂しく思うこともあります。

大学の入学当初は将来のことを深く考えていなかったと思いますが、漠然と研究職に就きたいと考えていました。幸いなことに、研究職に就くことが出来ましたが、研究室（衛生化学分野）での経験があったからだと言っても過言ではありません。長澤

先生のご指導のもと、自由に研究を進めさせて頂き、研究の楽しさを実感できました。これが研究職に進む切っ掛けになったと思います。また、プレゼンテーションの仕方や論理的な思考などは、研究室生活を通して研究者としての基礎が身に付いたと思います。

現在、私は製剤研究部で注射剤や吸入製剤、点眼剤などの非経口製剤の製剤開発に携わっています。ジェネリック医薬品の開発は、まず先発医薬品を分析し、添加剤の種類やその配合量を推定します。また、製剤に関する特許や文献などを調査して製造方法や効果的な添加剤、有効成分の分解メカニズムなどの情報を収集します。これらの情報を基に、製剤の処方設計を行い高品質の医薬品ができるように検討を行います。ジェネリック医薬品は先発医薬品と同等の有効性や安定性でなければなりません。これらに加えて患者さんや医療関係者に選ばれるような付加価値の高い製剤が求められます。仕事で患者さんと接する機会はありませんが、自分が患者の立場だったらどう思うかを考えて日々研究を行っています。

社会に出ると自分の専門分野以外の人達と接したり、知識を得る機会が少なくなりますので、大学在学中に様々な事に挑戦して、広い視野を持った人になって下さい。また、友人や先輩、後輩など様々な価値観を持つ人達と接して自分の価値観や考え方を磨き、そんな友人たちと充実した学生生活を送って下さい。

■ 伝えることのむずかしさ

学生相談室では、さまざまな事柄について相談をお受けしています。相談内容は十人十色、多種多様ですが、よくもちこまれる相談のひとつに、人間関係やコミュニケーションに関わる相談があります。そこで、今回はコミュニケーションについて取り上げてみたいと思います。

自分の考えや気持ちをうまく伝えられない、伝えてもわかってもらえない。そうしたコミュニケーションに関する悩みに直面する方も多いのではないのでしょうか。

伝えたいことを伝えることと、それが相手に正確に伝わることは必ずしも同時成立するとは限りません。意図した通りに自分の話が伝わらず、相手に自分の意図とは異なる解釈をされてしまったという経験が皆さんにも少なからずあることと思います。自分の伝えたことが正確に相手に伝わるものと期待しすぎていると、人間関係で落胆する場面が増えることになってしまいがちです。

何故、相手に自分の意図がうまく伝わらないのか。それは相手には相手の受け取り、解釈があるからです。たとえば、こちらが何かを伝えるとき、相手は様々なイメージや状況、これまでの経験知等を思い浮かべ、様々な感情が喚起される中で話を受けとってゆきます。この際、相手のそのときの状態やおかれている状況、相手の受けとり方の傾向等、様々な要素が複雑に絡んで作用します。そうした複雑な作用を通して得られる受けとりが自分の意図と合致することは稀有であり、それはコミュニケーションにおいてはごく当然なことだと言えるでしょう。伝えたいことが複雑なほど、抽象的な事柄や感情に関わることであるほど、正確に伝えることは難しく、かなりのやりとりが必要になります。やりとりにおいて理解のズレや誤解は避けられないもの、当然起こり得るものであり、それを修正しよう、理解し合おうと努力することがコミュニケーションの本質と考えられます。

自分について正確に伝えようと努力を続けること、相手が語ることを相手の考えや想いに即して理解しようと努力を続けること、相手に意図やニュアンスが伝わっているか、自分の理解と相手の理解が異なっていないかについて確認すること。これらがコミュニケーションにおいて大切なことであり、コミュニケーションはかなりの手間ひまがかかるものと言えるでしょう。手間をかける必要性を失念してしまったり面倒に思ったりして、ズレや誤解の修正に向けた努力を怠ってしまうと、「(自分の思うように)何故わかってくれないのか」「理解してくれないのは相手に問題があるのではないか」といった相手に依存的あるいは否定的な考えにとらわれたり、「自分のコミュニケーション能力が低いから伝わらないのだ」「話してもわかってもらえないし、話すだけ無駄だ」と自信を失ったり自分の内に籠ってしまったりするような事態に陥りやすくなってしまいます。

日常のやりとりの中で意識することは少ないかもしれませんが、何かを伝えるには複雑なやりとりのプロセスを必要とします。そのことを自覚して、明確に伝えようと努力し、相手と自分の違いを認めて相手に聴く努力を重ねることで、互いの理解は深まり、正確なものになってゆきますし、互いに理解し合おうとする良好な関係を築くことが可能になるでしょう。だからこそ、現在、自分の想いや考えがうまく伝えられない、伝えても誤解されてしまうと悩んでいる方には、あきらめないでいただきたいと思います。そうはいっても、伝え方がわからない、うまく伝えられない・伝わらない理由がわからない、伝えようとする勇気や意欲が持てない。そういう方もおられるかもしれませんね。そんなときは、身近な人(第3者)に相談してみるとよいかもしれません。また、学生相談室でも人間関係やコミュニケーションに関する相談をお受けしておりますので、利用してみてください。(臨床心理士 建部 有里)

■ 学生相談室のご案内

● 相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

● サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・ 開室(受付)時間: 月～金 8:45～17:15
- ・ 電話: 075-595-4672
- ・ メール: gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

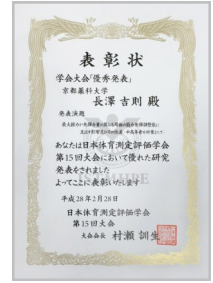
- ※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時(第1・第2希望)をお知らせください。
- ※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

■ 日本体育測定評価学会第15回大会において優秀発表賞を受賞

2016年2月28日（日）に東京で開催された「日本体育測定評価学会第15回大会」において健康科学分野の長澤吉則准教授が優秀発表賞を受賞しました。

演題：最大握力が発揮力量の異なる局面の筋力発揮調整能に及ぼす影響及びその性差：中高年者を対象として

演者：長澤吉則、出村慎一、高橋憲司、杉本寛恵

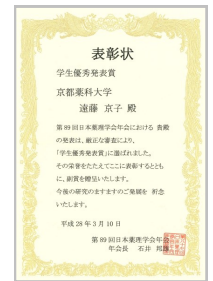


■ 第89回日本薬理学会年会において学生優秀発表賞を受賞

2016年3月9日（水）～11日（金）にパシフィコ横浜で開催された「第89回日本薬理学会年会」において、薬理学分野の6年次生遠藤京子さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

演題：T細胞におけるpre-mRNAスプライシング阻害剤による背景カリウムチャンネルK₂P5.1活性抑制

演者：遠藤京子、タギシ和隆、清水彩夏、鬼頭宏彰、藤井正徳、大矢 進

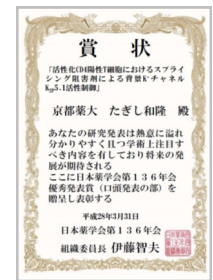


■ 日本薬学会第136年会において優秀発表賞を受賞

2016年3月26日（土）～29日（火）にパシフィコ横浜で開催された「日本薬学会第136年会」において、薬理学分野の5年次生タギシ和隆さんが優秀発表賞を受賞しました。

演題：活性化CD4陽性T細胞におけるスプライシング阻害剤による背景K⁺チャンネルK₂P5.1活性抑制

演者：タギシ和隆、清水彩夏、遠藤京子、鬼頭宏彰、藤井正徳、大矢 進



■ 平成27年度日本薬学会近畿支部奨励賞を受賞

薬理学分野の藤井正徳准教授が「平成27年度日本薬学会近畿支部奨励賞（第3部門 生物系薬学）」を受賞しました。本受賞は、アトピー性皮膚炎のモデルマウスを用いて、皮膚バリア機能障害や痒みの発症要因を明らかにした点が評価されたものです。

演題：ヘアレスマウスにおける食餌誘発アトピー性皮膚炎の発症要因の解明

演者：藤井正徳、遠藤史子、岩井安寿香、土井恵介、岩崎紘子、松田裕香、稲垣直樹（岐阜薬科大学・薬理）、奈邊 健（摂南大学・薬効解析）、大矢 進



■ The 13th Korea - Japan International Symposium on Microbiologyにおいて Best Poster Awardを受賞

2016年5月12日（木）、13日（金）に大韓民国The-K Hotel Gyeongjuで開催された「The 13th Korea - Japan International Symposium on Microbiology」において微生物・感染制御学分野の林直樹助教がBest poster awardを受賞しました。

演題：Translocation of Pseudomonas aeruginosa through the epithelial cell layer

演者：Naoki Hayashi and Naomasa Gotoh



■ 日本薬剤学会第31年会において最優秀発表者賞を受賞

2016年5月19～21日に岐阜で開催された「日本薬剤学会第31年会」において、薬剤学分野 博士後期課程2年次生の田中晶子さんと博士課程3年次生の山下修吾さんが、それぞれ吸収、DDS部門で最優秀発表者賞を受賞しました。また、これら2名の学生は永井財団大学院学生スカラシップも受領しました。

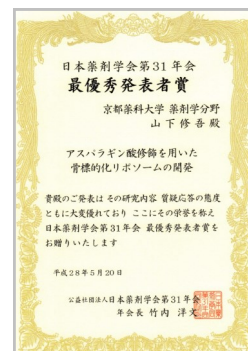
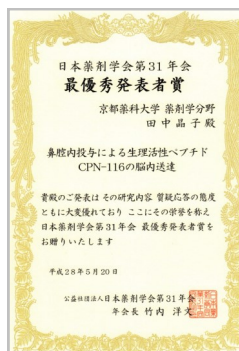
演 題：鼻腔内投与による生理活性ペプチドCPN-116の脳内送達

演 者：田中晶子¹、竹村有希¹、武田康嗣²、高山健太郎²、
古林呂之³、草森浩輔¹、勝見英正¹、坂根稔康¹、
林 良雄²、山本 昌¹

(1 京都薬科大学、2 東京薬科大学、3 就実大学)

演 題：アスパラギン酸修飾を用いた骨標的化リポソームの開発

演 者：山下修吾、勝見英正、日比野希美、磯部友吾、
矢木夕美子、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌



私の薦める、私の一冊 Column.

京都薬科大学長 後藤 直正

吉村昭 著『白い航跡』
講談社文庫 上/下 (1991)

歴史作家といえば、日本の第一人者は司馬遼太郎さんかもしれません。坂本竜馬の発掘（起用）など偉業を成しとげられています。司馬さんの歴史小説には、国家を語るために私意を挿入しているように感じます。いっぽう、犯罪、開拓、戦争、医療・科学などのテーマを掲げられた吉村明さんの歴史小説には、克明な取材を基にした客観性を感じます。近代日本の科学・医療の黎明期を題材にした多数の小説を書かれたことから、本学で講演をして戴きかけたことと今でも思っております。講演をお願いするわずか前にお亡くなりになられたことが残念です。

さて、本題。本書は慈恵会医科大学の創立者である高木兼寛氏の生涯を基にしたロマンあふれる医療

ノンフィクション的歴史小説です。幕末期に、医師を志した薩摩藩郷士の主人公は、大した教育も受けずに、薩長対幕府軍の戦いに従軍し、当時の医療では人を救えないことを痛感します。薩摩藩に戻り、英国教師から英語と西洋医学を学ぶ機会を得るところから、より良い医療を考え、従来の流れに従わない確固たる意志を貫く人生が始まります。海軍軍医のトップに立ったときに、当時、日本特異的な疾患であった「脚気(かっけ)」の原因について、軍医総監であった森林太郎(森鷗外)と大論争をし、海軍の訓練航海によって、その終止符を打ちます(第97回薬剤師国家試験に、この海軍航海の科学的意義を問う問題が出題されています)。上下2巻の長い小説ではありますが、真を考える姿勢と意思を貫くことを教えられる気がします。もうひとつ、東京銀座に開店した「資生堂パーラー」の前身が何であったのかということも発見されることと思います。

※本書は、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

Library News

開館日程

図書館

2016年 7月

2016年 8月

2016年 9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

□ 8:30-21:00 □ 8:30-17:00 □ 10:00-17:00 □ 休館 □ 休館=館内整備

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2016年3月～2016年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

澤田 修(昭17)	匿名希望 (昭37)	吉田 進彦(昭42)	大石 美恵(昭51)	坂本美智恵(昭57)
高崎 昭(昭28)	堀 寛之(昭37)	久米 和子(昭43)	丹所 稔(昭51)	蛭谷 大介(昭63)
安藤 寛治(昭29)	本岡美智子(昭37)	吉田 裕子(昭43)	福岡太英子(昭52)	浅野 元(平09)
永濱 淳子(昭31)	伴野 紘子(昭38)	高越 清昭(昭44)	森 一二美(昭52)	浅野 清子(平10)
片岡 勲(昭32)	今村 浩子(昭39)	蘆田 康子(昭45)	奥川 信子(昭53)	山根 正司(平10)
四方 治子(昭34)	森 道子(昭41)	稲垣 美幸(昭45)	奥川 斉(昭53)	西村奈央恵(平13)
末広 徳子(昭34)	谷口 睦子(昭42)	井岡 万純(昭49)	進藤 広彦(昭53)	
上田 公一(昭36)	山口 博行(昭42)	青井いづみ(昭50)	高美 美鶴(昭56)	

＜ 京薬六一会卒業30周年記念募金（昭和61年卒業生）（五十音順）＞

秋葉 聡	岡本 靖子	越出 範子	戸田 康裕	古田 智子
網干 正幸	抱 隆史	小船 亜紀	中井 重浩	堀 重俊
飯島 宏朗	加藤由美子	里見 理代	中谷満佐美	本田洋一郎
五十嵐恵美子	川上 淳子	庄司 正子	中原 広子	前田美穂子
石井しづ代	川中 伸浩	白石 光彦	西尾 静	松本 真
磯谷智佐子	苅田 圭史	曾川 都美	西田 敬子	村上 明子
稲角 利彦	神田 真弓	泰地 和子	林 秀彦	村上 敦子
稲本 珠生	木本 雅文	武部 宏美	林 文子	山田 健司
宇佐川紀世子	国安 紀子	田中 順子	氷見 憲司	山村 桂子
馬越 万貴	栗谷 可子	谷上 良子	平辻 伸子	吉松 美恵
大音 文子	青松 理香	津島 美幸	福田 佳司	渡邊 徳子
岡本 光弘	河野 勝治	辻本 桂吾	藤原 由佳	渡邊 靖

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

乾 賢一(前学長) 高美 時郎(評議員) 村澤 悟(局長) 森 新(評議員) 吉川 豊(元教員)
 久米 光(評議員) 松田 久司(教授) 村山猪一郎(監事) 森田 和子(理事)

(2016年5月31日現在)

■ お詫びと訂正 ■

「KPUNews No. 185」におきまして、P. 27 「人事」のページに下記のとおり誤りがありました。お詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

記

【採用】

正：理事長特別補佐・事務局長代行 村澤 悟
 誤：理事長特別補佐 村澤 悟

【昇任】

正：事務局企画・広報課 企画・広報課長・国際交流推進室長兼務 川勝 章広
 誤：事務局企画・広報課 企画・広報課長 川勝 章広

【退職】

正：薬学教育系教育研究総合センター 臨床薬学教育研究センター 教授 高山 明
 誤：薬学教育系教育研究総合センター 薬学教育研究センター 教授 高山 明



KPUNews No. 186 2016年7月発行／編集：KPUNews編集委員会
 発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。